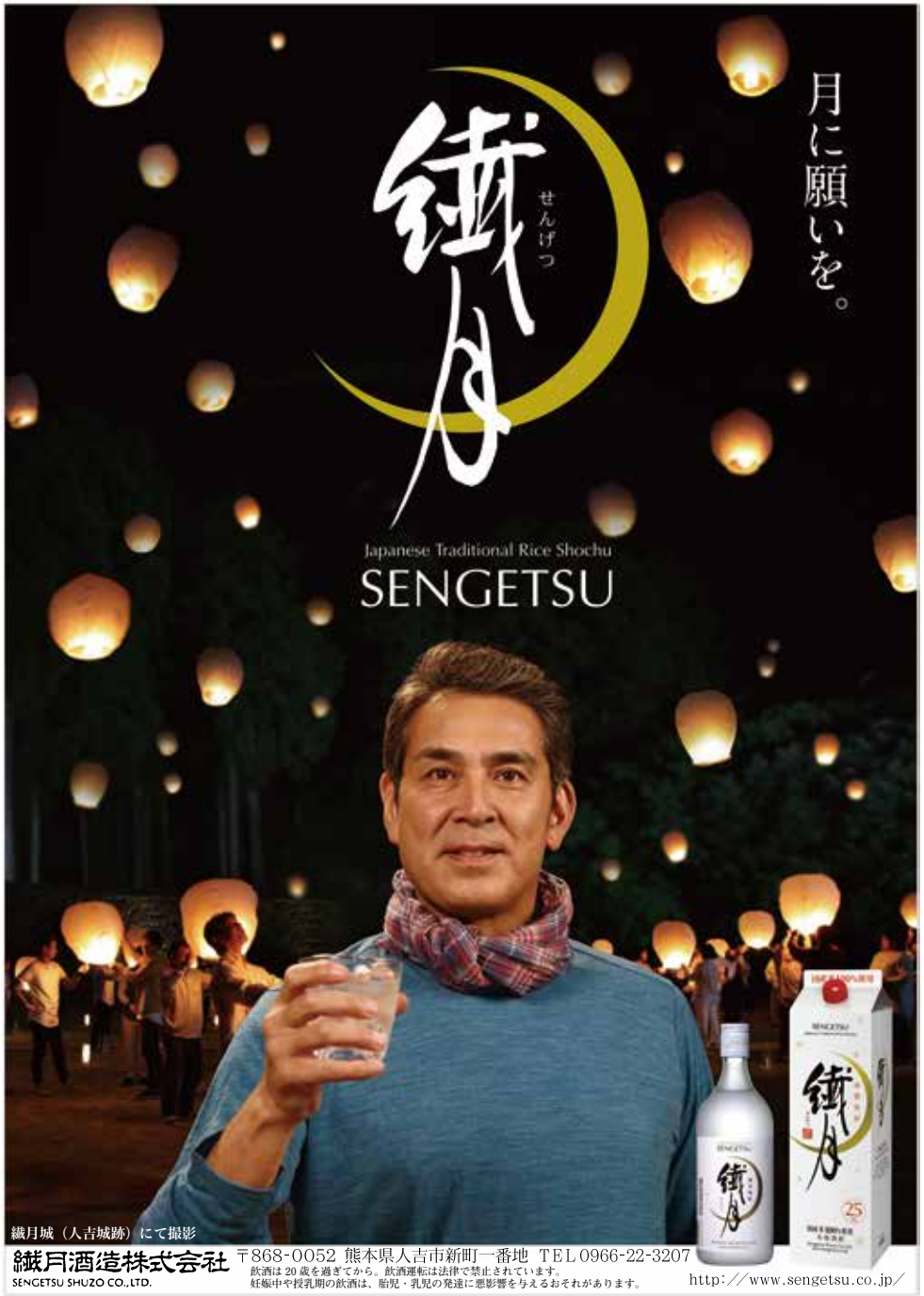
月刊くまがわ春秋 第22号 2018年1月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社 TEL 0966-23-3759／FAX 0966-23-3759
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp



雑誌 81779−01-8
4910817790185
00500
定価 540円
本体 500円

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2018 1 第22号

『西郷どん!』と手鞠唄

「国宝 10年目の年あける」人吉市・青井阿蘇神社の元日 © 松本 学

最近のおもな出来事

12月16日（土）
▽求麻郷土研究会12月例会「五木村南部文化財調査」
12月17日（日）
▽第65回球磨一周市町村対抗熊日駅伝大会
12月23日（土）天皇誕生日
▽田舎の体験交流館さんがうら「収穫祭」（球磨村）
▽くま川鉄道「クリスマストレイン」運行（田園シンフォニー）
12月25日（月）
▽青井阿蘇神社「旧青井家住宅」有形文化財証書伝達
12月27日（水）
▽球磨川下り「竿納め」（人吉発船場）
1月1日（月）元旦
▽青井阿蘇神社「元旦祭」
1月2日（火）
▽球磨川下り「初下り」（人吉発船場）
1月6日（土）
▽第21回八代こども科学フェア（～7日、やつしろハーモニーホール）
1月7日（日）七草
1月8日（月）成人の日
1月10日（水）
▽人吉市夫婦えびす神社「初えびす」（九日町）
1月14日（日）
▽人吉市消防出初め式（ふるさと歴史の広場）
▽第6回公認奥球磨ロードレース大会（水上中学校スタート）

今月の一言

『文読む月日』（レフ・トルストイ編著　北御門二郎訳）より

世界の人々はみな、自然の恩恵を享受する平等の権利と平等の人権とを持っている。

表紙写真

「国宝10年目の年あける」
人吉市・青井阿蘇神社の元日

平成20年（2008）6月9日、国宝指定を受けてから10年目の年を迎えた同神社の社殿群は、慶長15年（1610）から同18年に4ヶ年をかけて造営された。

その厳かな佇まいの前で、新年のカウントダウンを待っていた参拝客は、列を作って年が明けるのを待った。

撮影／松本 学（編集部）

本誌の取扱店舗
■清藤書店■ブックスミスミ■明屋書店（錦店・免田店・多良木駅店）
■道の駅さかもと■ TSUTAYA 八代松江店

― 1月（第22号）目次 ―

新企画
エンブリー・ノート①「外国人理解」…32
荒瀬ダムと瀬戸石ダム①…42
小説・相良清兵衛①　山口 啓二…66
夏目友人帳のふるさと巡り①…76

『西郷どん！』と手鞠唄　上村雄一…4
柳人があじわう漱石俳句㉒　いわさき楊子…7
駅・ものがたり㉒「あさぎり駅」松本晉一…8
記憶の落ち穂㉑　坂本福治…15
くまがわの神さん仏さん⑰　宮原信晃…16
山に行こうよ！⑩…20
建築みてある記⑰　森山　学…22
漢和字典は面白い⑤　鶴上寛治…27
くまがわすじの考古地誌⑯　木﨑康弘…28
エンブリー・ノート①「外国人理解」…32
「あがっ段」⑳　上杉芳野…34
方言を味わう⑲　前田一洋…36
北御門二郎訳「イワンの馬鹿」喜多岡　洋…38
新・日曜釣り師心得④　宮原赤竿…40
荒瀬ダムと瀬戸石ダム①…42
外来語から学ぶ英単語㉒　藤原　宏…44
ひろしのげっかん・ぎひょう…44
女の黒髪・男の黒髪　冨永和信…45
今月の詩㉑「ワンステップ」…47
同級生「李・哲」とのソウルの旅　宮﨑勇市…48
倉敷便り⑬　原田 正史…56
字図で見る球磨の地名㉑　上村重次…59
文庫本「シュリーマン旅行記」白城松男…62
小説・相良清兵衛①　山口 啓二…66
おっとわっとあすび⑪　松舟博満…71
いもご短歌会…72
くまがわ学習塾⑬…73
「ひまわりっ子」阿蘇登山に挑む　東 慶治郎…74
夏目友人帳のふるさと巡り①…76
手のかからないペット　武井京子…78
くまがわ狂句　村上 鬼拳…79
安倍首相の元旦　久馬 俊…80
広辞苑第七版　平岡優平…81
話題を追って…83
今月の秀句⑪　永田満徳…84
前号【くまがわ学習塾⑫の答え】…87

巻頭言

他人任せにしない

ＪＲ九州は今年３月17日のダイヤ改訂で、九州新幹線をふくむ全22路線で運行本数を減らす予定である。これに対して、便数が減れば不便になり、いっそうの利用減を招きかねない、地域の足は失われるのでないか、一方的に減便を表明したのは残念であるなどの意見がある。計画中止を求める意見書を出した自治体も少なくない。しかし経営体としては赤字路線を打ち切るのは自然な行動であろう。

鉄道は公共交通機関であるという一面があるが、国鉄の分割民営化の時点で、そこでいう「公共性」の意味は違うものになった。都市部で得た収入を田舎の赤字路線の営業経費に充てるのは「不公平」であるとか、自動車がなければ田舎では生活できないという考え方を見直さないかぎり、鉄道路線の地方での衰退は今後も続く。

列車を利用してみれば直ぐに分かる。空席だらけで、ほとんど利用されていない。便数減を嘆く前に田舎に住む者は可能なかぎり列車を利用すべきである。「私は列車を利用しません。しかし、あなたは利用してください」では虫がよすぎる。

ネット販売も同様である。店舗にいかなくても、短時間で配達するので利用する人が増えている。地域の商店はそれで損失を受けるのだが、私的利便性を求める傾向は簡単には止まらない。運送人不足という配達業界の低迷を問題にする前にネット販売の性格を理解すべきだ。利便性を追求するなかで失ったものも多い。移動時間・購入時間の短縮で自由に使える時間も増えたのであろうか。かえって窮屈になったように思えるが、どうだろうか。

（春秋）

受験シーズンに人気　一勝地駅の入場券

受験シーズンを迎え一勝地駅の入場券の売り上げは今がピークだ

大学の入試や高校など本格的な受験シーズンを迎え、球磨村のＪＲ一勝地駅では「縁起物入場券」が人気を集めている。地名の「勝」が〝合格を勝ち取る〟につながることから、受験生に引っ張りだこ。

昨年は１万８千枚を販売

一勝地駅の入場券は１枚１６０円。当初は勝利を求めるスポーツ関係者らの間で広まり、この人気に目をつけた球磨村が２００５年から「必勝！合格祈願」キャンペーンを開始、受験生のお守りへと拡大し、今では年間を通しての人気商品となっている。

08年は８千枚台だったが、ＳＬ人吉が運転再開した09年は１万８千枚台に急増、そして12年には過去最多の２万５４０枚を記録した。その後、少子化の影響などもあり徐々に減り、一昨年も地震の影響などで減少したが、昨年は１万８千枚に増えたという。

駅の近くにある一勝地阿蘇神社も人気のスポット

『西郷どん！』と手鞠唄

上村雄一

菊次郎

明治41年（１９０８年）、西郷菊次郎は京都市長になった。菊次郎の市長就任を祝う祝賀会で京都の舞妓二人が唄う。

一掛け二掛け三掛けて
四掛けて五掛けて橋の上
橋の欄干に手をかけて
はるか彼方を眺めれば
十七、八の姉さんが花と線香手に持って
ねえさん、ねえさん、どこ行くの
私は九州鹿児島の西郷隆盛娘です。
明治十年その年に
切腹なされた父上の
お墓詣りに参ります
お墓の前で手を合わせて
南無阿弥陀仏と拝みます
お墓の前には魂が
ふうわりふうわりとジャンケンポン

右は林真理子『西郷（せご）どん』（角川書店）の一節である。この一文を読んだとき驚いた。旧坂本村（八代市坂本町）の唄と芸妓の唄の内容がほとんど同一だったからである。『坂本村史』１３６７頁は唄を次のように記録している。

一かけ二かけ三かけて
四かけて五かけて橋をかけ
橋の欄干　腰をかけ
はるかむこうを眺むれば
十七、八の姉さんが
片手に　花持ち、線香持ち
姉さん、どこ行く　聞いたれば
私しゃ、九州鹿児島の
西郷隆盛　娘です
討ち死になされた　父上の
お墓参りに、参ります
お墓の前で手を合わせ
南無阿弥陀仏と　唱えます
梅にウグイス　ホーホケキョ
ホーホケキョと　鳴いてます

『西郷どん!』林 真理子著
2017/11/1　KADOKAWA

林真理子が、なぜ、この唄を知っているのか。しかも、彼女は京都の舞妓の唄として小説に登場させている。その理由はなにか。そもそも京都の芸妓たちは、この唄を知っているのか。旧坂本村の唄であると信じきっていたので、つぎつぎと疑問がわいた。

調べてみると、全国各地で唄われていた。不勉強と無知を恥じるばかりである。『西郷どん』を読まなければ、いまも、坂本の唄であると信じていたであろう。坂本は西郷軍と官軍の激戦地のひとつであったので、薩摩軍の兵士と坂本の娘が恋に落ち、娘が女の子を身ごもり、このような唄が生まれたのだと推測していたが、まったくデタラメの推測であった。「手鞠唄（てまりうた）」と漠然と考えていたが、「一かけ二かけ」と一般には呼ばれていることも知った。

メロディーは別にして、歌詞は可愛くはない。一見すると不気味にみえ、子どもたちが唄うようにはみえない。しかし考えてみれば、これも偏見にすぎない。『とうりゃんせ』も『かごめかごめ』も決して穏やかな内容ではない。それにもかかわらず、子供たちはうたいつづけている。その理由はなにか。分からないことだらけである。

菊草

隆盛は、西南の役のとき「賊軍の将」とされた。賊軍であるから靖国神社にも祀られていない。西南の役の12年後（明治22年）に明治憲法が発布された。そのとき

大赦の対象になって復権し正三位を追贈された。「一かけ二かけ」の唄はそれ以降に普及したはずである。それより前は彼を追慕する唄を許されず、ましてや流行するはずがない。それにしても、どこで、いつから「一かけ二かけ」が唄われはじめて、全国に、旧坂本村まで広がったのであろうか。

西郷隆盛には5人の子どもがいた。菊次郎、菊草、寅太郎、牛次郎、酉三の5人である。娘は菊草だけである。隆盛が奄美大島に潜伏中に愛加那との間に生まれた。文久2年（1862）7月2日生まれで、隆盛が城山で自刃したときは15歳であった。隆盛の初盆のときには数え年で17歳か、18歳になる。「一かけ、二かけ」の娘と同じ年齢である。菊草は、明治40年頃、兄・菊次郎のもとへ身を寄せ、明治42年（1909）9月7日、京都で亡くなる。享年47歳。菊次郎が京都市長に就任した1年後である。

林真理子は『西郷どん』で、菊次郎の前で「一かけ二かけ」を舞妓にうたわせている。唄を聞いて菊次郎は「妹のことだと菊次郎は思った。それしか考えられない。西南の役後、アメリカ、台湾と旅してきた自分は、このような手鞠唄が生まれていることを知らなかった。奄美大島で母と妹、三人で暮らしていた日々が不意に甦る。じりじりと灼けつくような太陽と波の音。かや葺きの小さな家。不覚にも瞼が熱くなった」。

『西郷どん』は今年のNHK大河ドラマの原作である。大河ドラマに特に関心があるわけではないが、この場面が放送されるならば、ぜひ観たいと思う。観たからといって、この唄の由来を確認できるわけではないだろうけれども、それでも、この唄の重みを感じとれるのではないかと期待している。菊草は晩年は兄のもとで京都に住み同地で亡くなった。林真理子はそれを熟知したうえで原作を書いたのだろう。いい作家である。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

柳人があじわう漱石俳句
―㉒―

いわさき楊子

―父親としての漱石―

漱石も家庭では一人の父親だった。女5人男2人の7人の子を成した。妻、鏡子が四女愛子を出産するときには、お産の介助人が間に合わず出産を手助けしている。そして五女雛子を幼くして亡くしている。

最初の子は流産だった。そして熊本の内坪井の家でようやく長女筆子が生まれた。今も残されている漱石第五旧居の井戸のわきに次の句碑がある。

安々と海鼠の如き子を生めり
（漱石32歳）

「海鼠（なまこ）」という表現がいまも物議をかもしている句だ。女親ならば、安産だったとしても「安々と」とはいわないだろうし、子を「海鼠」とは表現しないだろう。男親ならではの子に対する距離感がある。漱石にとって最初の子だったこともあり他人事のようだ。それがかえって邪魔な私情をはずして詩句になっている。

漱石が生涯のうちに子どもを詠んだ句には、男の子にくらべて女の子を詠んだ句が多い。女児や娘をみるやさしいまなざしが読み取れる。

女の子発句を習ふ小春哉
（漱石28歳）

黒塀にあたるや妹が雪礫
（漱石40歳）

女の子十になりけり梅の花
（漱石49歳）

めちゃくちゃの子どもの遊びにもルール
ちょっと動かすだるまさんがころんだ
骨抜きの魚子どもの骨を抜く
お役所に届けて人になる赤児
親子とは連帯保証人のこと
追求はほどほどにして親子丼

【いわさき楊子（ようこ）／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり

連載その㉒　くま川鉄道・あさぎり駅

熊本産業遺産研究会　松本晉一

おかどめ幸福駅を出た列車は、右と左に大きなSカーブを描き、その先は1㎞弱で免田川へと向かう。免田川橋梁は平成8年7月の梅雨時の豪雨で橋脚が傾き、橋桁もS字状に曲がる被害が起き、不通時は代替バスを運行、その復旧費用に約1億5千万円を有し、期間は3ヶ月を要している。この免田川橋梁は上路鈑桁6連、湯前線では2番目の73mの長さである。下流には平成14年竣工の町道「あさぎり橋」が在り、ここからの市房連山の遠望も素敵である。線路は鉄橋から国道219号線と並行して約1㎞の直線が続き、あさぎり駅構内へと入る。

今の橋梁（上）と
豪雨で橋脚が傾いた免田川橋梁（平 8.7.2 福）

あさぎり駅（旧免田駅）

あさぎり駅は起点の人吉温泉駅から15㎞、所要時間は約25分、隣のおかどめ幸福駅からは2㎞の距離にあり、昔の免田町の中心（免田東堀ノ角1482―2）に位置する。

あさぎり駅ポッポー館正面

改札口

駅の開業は湯前線開通と同じ大正13年（1924）3月30日、今年で94年目を迎える。構内は2面2線と保線用の側線を有し、ホーム有効長は湯前線では一番長く、車両6輌が停車できる。同じ漢字の「免田」だが、読み方の異なる〝めんでん〟駅がJR西日本（石川県）七尾線にある。

国鉄時代の免田駅

2011年度の1日乗車人員は353人（降車客含まず）。その70％は高校（多良木・南稜）の通学生とのこと。明治36年（1903）創立の球磨農業高校（現南陵高校）は、湯前線開設の21年前に免田の街中に創設されている。近年、高校近くの神殿原には先の大戦中に建設された陸軍

の秘匿飛行場跡が確認された。

駅名の「あさぎり」は平成15年4月1日に免田町・上村・岡原村・須恵村・深田村の1つの町と4つの村が合併（人口約15500人）、「球磨郡あさぎり町」として誕生。標高は153mで、この地に発生する朝霧に因んだ名称。

開通 60 周年記念式（昭和 59 年 3 月撮）

旧免田町の名称は、昔は租税を免ぜられたほどの荒地で、免田はその名に由来するとされる。古えには郡家（郡役所）も在り栄えていたという。全長24・8㎞のくま川鉄道上では、「あさぎり駅」の位置は、

通学生で賑わう 1 番ホーム（昭 56. 7. 11 撮）

やや湯前駅寄りだが、5万分の1地図上では、球磨盆地のほぼ中央に位置し、その境を白髪岳からの免田川が区別する。

旧駅舎は屋根の葺き替えや補修はあったものの、平成11年までは昔ながらの木造駅舎が75年間使用さ

2 番線の貨物車、右手は貯木場とチップ用ベルトコンベア（昭 49.3. 撮）

れ、駅前にはロータリーが在った。

国鉄時代の昭和59年3月18日には湯前線開通60周年の記念行事が行われ、駅前左手にも国鉄湯前線開通60年記念碑が地元還暦有志により建立されている。

新築当時の免田駅ポッポー館（平成 11 年 10 月 17 日撮）

2面2線のホームには、中央に渡り踏切があるが2番線は昔、貨物用としても使用されていた。右の写真は、37年前の昭和56年7月の通学生たちの様子。2番線の貨物用SL右手には、材木と共にチップ搬入用のベルトコンベアが見て取れる。

現在の駅舎は「ポッポー館」の名称で平成11年（1999）10月、SLをイメージした外観で新設されたもの。1階には駅務室、待合所、トイレ、町営図書館、2階はホワイエ、多目的ホールと、最上階に展望塔が

今の駅入り口

ある複合施設になっている。駅前は整備されつつあり、季節に応じてビアガーデン、七夕祭りなどが開催される。現在も駅周辺の整備が進んでおり、駅前にはAコープなかくまや地元のスーパーが進出、駅前通りと国道219号線がクロスする地点が

駅前通り（展望塔より）

一番の商店街となっている。昭和50年頃までは駅前の角屋旅館裏には映画館「大丸旧館」「大丸新館」もあった。

当駅と人吉温泉駅の駅務室には国鉄時代からの赤く塗られた閉塞装置が設置されている。人吉・あさぎり間はタブレット（通票）閉塞式、あさぎり・湯前間はスタフ（棒）閉塞式で、前者は昔ながらのタブレットを交換をする駅。「行き違い」のその業務上もあって、くま鉄社員の有人駅は始点の人吉温泉駅とあさぎり駅で、相良藩願成寺、多良木駅は委託駅である。以前の駅員の服装はチェックのブレザーにカウボーイハットとユニークな制服であったが、現在は各駅の配置と共に水戸岡鋭治氏作成の黒のデザイン制服に変更統一されている。

タブレット交換機（左）

スタフ式　（右）

現在、側線上の東免田寄りにはＫＵＭＡ１、ＫＵＭＡ２の列車が保存展示されている。これは新潟鉄工所製の旧ＫＴ２０３、ＫＴ１０３の車輌で平成元年８月に到着、これを同21年１月に改装したもので、平成28年６月に引退し、同８月にあさぎり駅へ自走して、保材線車倉へ留置・展示されたものである。客室は綺麗に清掃されて、鉄道写真展など各種のイベントや週末土日に観光客用に開放されている。

旧免田の町は多良木、湯前と同様、昭和50年代までは木材産業で賑わい、ホームに降り立つと近くの製材所からの木の香りが漂っていたとのこと。その名残が昭和58年の駅前航空写真（左下）にも見て取れるが、多くの貯木場、製材所が駅周辺に点在していた。２番ホーム側は側線もあり、裏手の製材所な

引退展示されたKUMA1、KUMA2と室内（下）

どが直接、駅側ホームに木材を積んでいた。駅裏の僅かな貯木施設とその配送用の大型トラックの存在にその面影が残っている。駅の貨物取扱いも昭和55年に廃止された。また、米の集散地でもあったことから、駅近くには2か所に石倉が残っている。

湯前線開通までは球磨川を利用した舟運が中心で、免田町の北東２㎞の深田村には川の港があり、船着場も5箇所あったという。ここから農産物を始め、山産物・木炭・木材・銅などが高瀬舟で下流へ運ばれた。中でも大正９年には人吉新馬場の古賀三郎が上り５時間、下り３時間の川舟を１日３回、上りを１日２回運航、さらにそれが発動機船となり１日２回を運航させ、深田と免田間には馬車も連絡させている。これほど、球磨川と免田そして深田、人吉との関係性は重要であった。すでに明治20年には免田・深田間に木橋〝明廿橋（めいはた）〟が架橋されている。大正15年には免田の山下百太郎が人吉・湯前間の貨

駅前に点在する木材関係施設（昭和 58 年）

物自動車輸送を開始している。

大正15年9月刊の「興味を本位にした新旅行案内」によれば、「当駅は免田、上村、深田、岡原、須恵5カ村の交通駅として、将来嘱望の駅である。現在1日平均の乗客836人、降客759人。見るべき所には、谷水薬師堂：駅から4700m、薬師如来の示現に依って行基僧正の建立したもので、後恒武天皇のご本願に依って、日本七仏薬師第七番の霊刹となった由緒の古いもので、寺を谷水山東園寺と呼んでいる。旅館：青木屋、角屋（駅から300m、壱円八拾銭以上二円五拾銭）、名物：梨（壱貫八拾銭、熊梨と称して有名である）の記載が見られる。

昭和58年刊の「熊本の駅と港・免田駅」には、駅の北東約1kmの丸池は町指定の天然記念物「りゅうきんか」が自生し、春には黄色の清楚な花を咲かせるとのこと。又、郷土芸能には「下免田猿踊り」「久鹿の太鼓踊り」「九州相良踊り」が盛んだとの記事がある。

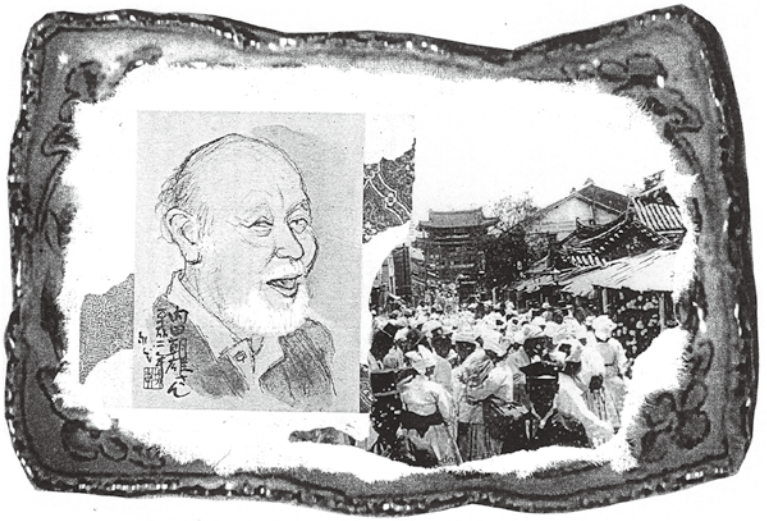
駅前に残る石倉「本町農協倉庫」（大正９年）

〈参考資料〉
・「興味を本位にした新旅行案内」大正15年9月25日発行　評論之評論社
・観光熊本くま川ガイド　昭和35年10月　熊本日日新聞社
・「空から見たくまもと」熊本県航空写真集・82　昭和57年11月　ワールドジャーナル
・熊本県航空写真集「ふるさとを飛ぶ」昭和58（1983）1月　熊本日日新聞社
・熊本の風土とこころシリーズ第3集27「熊本の駅と港・免田駅」昭和58年5月　熊本日日新聞社
・「各駅停車」全国歴史散歩44・熊本県　熊本日日新聞社編　昭和58年　河出書房
・復旧費は1億4500万円　人吉新聞　平成8年8月2日号
・あさぎり町誕生決定　平成14年5月23日　人吉新聞
・「九州JR私鉄2500キロ」全線全駅鉄道の旅10　1991年7月　小学館
・「人吉球磨の交通史」高田素次　通史編近代　平成6年10月　同編纂委員会
・盆地を走る駅シリーズ「あさぎり駅」平成21年6月15日　人吉新聞
・ウィキペディアあさぎり駅
・陸軍人吉飛行場跡　2013年3月　あさぎり町教育委員会
○聞き取りと資料提供：（福）は福井弘氏　写真提供他

記憶の落ち穂

その㉑

絵と文／坂本福治



俳優　内田朝雄

私が生まれた平壌は、誠に迷惑な意味で世界の注目を集めている。何かと共存の道が開かれないものかと、祈るばかりである。

東京に過ごした昭和四十年代、ひょんなことから私は、平壌時代の小学校の同窓会を立ち上げた。会員二二〇〇人。内田朝雄氏は同窓生だった。総会受付で何年卒業か聞かれると、「何年かなあ」。そばに同級生がいて、「内田、お前は八年だ」。「そうか八年か」てな具合。

内田氏は悪役専門のような俳優だったが、普段は大変柔和な人で、詰め襟の、神父のような服装で出席された。宮沢賢治に熱心で、本を二冊出された。井上ひさしの書棚がテレビに出た時、彼の本がおさまっていた。

一度だけ、人吉から熊本まで、車で一緒になった。内田氏は史跡にも関心が深く、ジェーンズ邸では入館時間を過ぎていて、高齢の係員に断られた。

内田氏は自分の身分は語らない。私は、ここで有名な俳優で、東京から来られたことなどを言うべきか迷い、ついに一歩が出なかった。邸が地震で壊れ、後悔している。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

くまがわの神さん仏さん⑰
球磨村お堂巡り その⑥
―水篠地蔵堂―

宮原信晃

かつての水篠地蔵堂の様子

西和弘さんより山ん神様があった元の場所を教えていただく

「現場百回」ということばがある。その道のお方に聞くと「泥棒さんにも個性があり癖もある。事件が起きたその現場には遺留品となった証拠品はあるが、犯人を捕まえるにはその犯人の癖をも見つけなければならない」と。

だから百回通うのだそうだ。

球磨村のお堂や祠をみて回っているが、一回目、二回目、そして三回目と通っているといつの間にか、そこに暮らしている人達に近づいたり、遠目でみたりと、同じ風景でも、だんだん変わっていくことに気づく。今回の「水篠集落」がまさにそうである。

球磨村の渡駅から北へ2キロ程入った場所に水篠集落がある。

今、水篠にお暮らしの方にお話を聞き、その祖先の人々を想像し、そしてその方々を包んで離さなかった山や野や田畑の姿。

その真ん中に「地蔵堂」があった。

昔は、りっぱな地蔵堂があったそうだが、今は公民館の中にお地蔵さんがおられた。

中央にお地蔵さんがお二人お座りされ、その左右に立ったままの仏様がおられる。尊名わからず（どなたかわからない）であるが、なか

現在は公民館の中におられるお地蔵さん

なか味のあるお方に見える。

中央のお地蔵さんの右側のお方が御本尊様か。

目、指、体型が他とひと味違う。

一番、高貴なお方に見える。

そのお地蔵さんがおられる横に気になる額縁が置いてあった。

その中には、お坊様が描かれている。

球磨村の事は富永知敬さんに聞けとばかりに、その場で電話をしてみると、

「そのお坊さんが描かれた板きれは、万治4年（1661年）に書かれたもので、4軒の西さんのお名前も書かれていますよ。山ん神様の所に昔からありました」とのこと。

そして人吉市九日町のつぼやの益田啓三さんのところで、赤外線を照射して文字をみようと試みた事も教えて頂いた。

たしかに、お坊さんの真上に真

今から357年前の僧侶のお姿

四角に色を塗って何かを隠した跡があった。

何だか、文字が見えそうでみえないのだ。赤外線で見えないものが私に見えるはずはなく、なんか怪しいとしか思えなかった。その板は山ん神様の場所に隠してあったそうだ。

なぜだろうか。

この水篠公民館のお世話もされている西和弘さんにお話を聞くと、山ん神さんは、川向こうの山の中腹にあって、なかなか登って行きづらい場所だったので、新しく別の場所に移動したそうであった。元の場所には4本の大きな椎の木があって神聖な場所だったとのこと。なぜ、そのお坊さんの板を隠す必要があったのだろうか？

もしや。

球磨村の各集落にはお堂や祠が点在する。その中心的なお堂は、阿弥陀堂と地蔵堂である。地蔵堂が阿弥陀堂より少し多いのだが、そのお地蔵さんに「南無阿弥陀仏」と念仏するという。

やはりここも「一向宗（現在

何かを隠すように四角く塗った跡

の浄土真宗）禁制」の影響で隠れて信心をした所なのだろうか。

お地蔵さんの左右におられる立ったままのお方は、私には、阿弥陀三尊の両脇におられる、観音さまと、勢至観音さまにも見えてきた。山ん神様の所で、「なんまんだぶつ」と声を出して唱えても、それこそ、山ん中なのだ。

では、このお坊さんはどなたか？

無茶を承知で、「安心（あんじん）」和尚さまだったらどうだろう。

万治三年（１６６０年）に人吉球磨の地に帰ってきた安心さま。

その安心さまに惚れ込んだ４名の西家の人々がいてこれはその翌年である。

ご禁制になって約１００年後の相良藩に、安心和尚さまが「一向宗」

公民館におられる お地蔵さん

を携えて帰郷して、それこそ、安心して布教活動が出来る場所がここなどの山に入った集落かもしれない。

真四角に色塗りされた場所には「帰命無量寿如来、南無不可思議光、法蔵菩薩因位時」と書かれていたが、それを発見される前に色を付けて消したのではなかろうか。

安心和尚は、念仏者（一向宗の僧）であろうと益田啓三さんが永年研究をされてきた。

勿論、もしもであるが、安心和尚のお顔が今の世に残っていたとしたら、生きておられる頃のお姿が現代の世に出現したことになる。

今から３５７年前のお姿がしっかり見て取れるお顔である。

現場百回というけれど、真実から遠のいた私の無謀な推理は、違っているだろうけれど、やっぱり安心和尚さまであってほしいなあ。

【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

注：安心（あんじん）和尚

安心は山江村山田の生まれで正保年中（１６４４～１６４７年）に伊勢で真言律教を学び万治３年（１６６０年）球磨に帰ってきた。渓空山転生院を創建し寛文７年（１６６７年）藩主相良頼寛公が亡くなると頼寛公のために仏堂を建てると共に３年隔夜や石碑を建てた。安心は元禄２年（１６８９年）、70歳で亡くなる。近年、「釈安心」と刻まれた燈籠と石碑を発見し「やはり安心は一向宗の布教僧であった」と確信を強くしています。「益田啓三著、球磨人吉の墓碑銘」より抜粋。

山に行こうよ！ その⑩

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

高千穂峰

標高 1574m（宮崎県 鹿児島県）

2017年10月6日（金）
天候：曇り
参加者：7名

「引き返す勇気」それもまた大切だ

この峰にこれまで何回登っただろう。暑い夏も樹氷の季節も、花の頃も紅葉の季節も。立木の無い、見晴らしの良い山肌を登り、馬の背と称される噴火口の淵を渡り、少し下ると鳥居に着く。ここから急な傾斜に挑み、逆鉾の祭られた頂上を目指すのだ。標高は1574m、隣に位置する韓国岳の1700mより低い。しかし、高千穂はこの急傾斜が登山の難易度を上げている。

天候は曇り、九州の北部は雨、所によって大雨の注意報が出たが、南部では太平洋側宮崎県の一部に雨雲が掛かっている。しかも明日からは一週間続きの快晴予報である。早朝起きて庭に出たが雨は無い、このまま天気が回復することを期待して決行する。

霧で何も見えません。鳥居の立つ祠で

車を出していただいた段村善昭さんの車に5人乗り込んだ。途中いつもの白鳥駐車場でえびの組2人と合流した。

8時20分、高千穂河原着。駐車場の車は8台と流石に少ない。中年の女性たちグループが軽装で来ていたが、高千穂ではなかったようだ。

8時40分、出発する。霧が濃く、リュックに防水カバーをかけた。林の中では時折、梢に集まった霧が雫となって落ちてきたが、衣服が濡れるほどの霧ではない。

9時15分、林を抜けてお鉢の麓に着いた。途端に風が霧を吹きつける。衣服が濡れそうで雨具を着た。登り始めると意外にも登り易い。新燃岳の火山砂が前日の雨で濡れていて、滑りにくいようだ。これはいけると喜んだ。いつもの岩場中央辺りが登り易い。

下山の途中にライトブルーの爽やかな空が

10時、馬の背辺りで強風が気になったが、幸い吹き飛ばされそうに細身の人もなく大丈夫だろうと、渡り始めて30分で鳥居の立つ祠に着いた。

しかし、相変わらず強い風と暗い空、濃い霧で視界は30mほど。天気は好天に向くと予想はしたが立ち止まり、さていかがしましょうかと作戦会議。戻りましょうかの声が上がったために、今回はここで断念した。

下りは愉快だった。登りの岩場を避けて右寄りに進路を切り、火山砂の探さを利用して滑りながら下る。しかも濡れた砂は適当に滑り難く歩きやすい。あっという間に麓に着いた。

しかし、この下りの途中に目の前の空が急に明るくなり、ライトブルーの爽やかな空がのぞいて日が差してきた。一瞬「登って来た方が良かったかな」とも思ったが、あの強風と霧に阻まれても、道に迷うことは無いが、何かしらの事故になったかもしれないと考えれば、「また来ます」と「引き返す勇気」これもまた大切だと、事故無く終えた今回の山に教えられた。

【島津　真】

建築みてある記⑰

中津道阿蘇神社をあるく

森山　学

写真① 境内横の球磨川へ降りる路地（石鳥居があった頃）

八代市坂本町の中津道に中津道阿蘇神社がある。八代から球磨川左岸を上ってきた国道二一九号線は、この中津道で鎌瀬橋を渡り、その後は人吉まで右岸沿いを進んでいく。この鎌瀬橋を渡ると、すぐ左手にお堂、右手に中津道阿蘇神社の本殿の屋根が見えてくる。

お堂は阿弥陀如来像などを安置しつつも観音堂とよばれており、八代の悟真寺の末寺、永谷庵の寺跡とも伝えられている。

中津道阿蘇神社は、阿蘇神である健磐龍命と比咩御子神を祀る。また『坂本村史』によれば、永禄一二年（一五六九）の銘をもつ観世音菩薩絵像、永禄六年（一五六三）の銘をもつ金銅製懸仏なども本殿に安置しているというから、お堂とともに神仏習合の信仰の状況をいまに伝えていると言えよう。

その創建年は不明である。『坂本村史』には天正年間（一五七三～九二）の創建とも、相良氏の家臣であった蓑田家が創建したとも書かれており、また同じく相良氏家臣で観世音菩薩絵像の願主・宇治吉忠が祈願社として利用したともある。阿蘇神を信仰した相良氏の時代に創建されたことは十分に考えられる。

さて、それでは中津道阿蘇神社を歩いてみよう。国道から見えていた屋根は、実は本殿を背後から見たものであった。国道の拡幅工事によるものであろう、本殿は随分と国道際に建つ。そして社殿は球磨川の方向である北西を向いている。八代市日奈久の鳩山あたりに上陸したとされる阿蘇神をむかえるためであろうか。

写真② 鳥居からみる。左が本殿、右が拝殿

境内に沿って国道から球磨川へと下る素敵な路地があるが（写真①）、国道からこの路地に入ってすぐに鳥居が開く。数年前までは石造であったが、今は鉄製に変わっている。この鳥居をくぐると、最初の、そして最大のクライマックスがやって来る。

写真③ 鳳凰の丸彫り。その下に麒麟

鳥居正面に本殿の側面が見える（写真②）。本殿は流造という形式で、正面側だけ長く屋根が伸びた切妻屋根である（正面に向拝（ごはい）とよばれる参拝のための庇の空間をつくるため）。そのため側面の壁は上部が三角形をしている。この部分に通常、彫物などで装飾する。これを妻飾りと呼ぶ。なんとこの妻飾りに、巨大な鳳凰が宙を急降下しているのである（写真③）。

鳳凰は丸彫りの立体的な彫物で、肉厚な翼を丸々とした胴体から左右に大きく広げ、正面に首を突き

出す。その頭には冠羽が載る。ただし顔は地面を向いている。まさに急降下。尾はやや丸みを帯びた尖った形状をし、その一枚一枚が大きく広がり、湾曲しながら前方に垂れて突出する。この彫物が取り付けられている琵琶板とよばれる板に、鋸歯状の尾が左右に広がっている。

妻飾り全体は流動的な雲に満たされ、鳳凰はその雲を突っ切っているかのようである。鳳凰の下には二対の阿吽の麒麟が雲間をかけており、鳳凰はその二頭の間を降下していく。霊鳥と霊獣の長がそろい踏みしたわけだ。麒麟たちは鳳凰の降下する様子を見上げているようでもある。

反対側の妻飾り（写真④）も見てみると、中央に鋸歯状の尾をひれとする蟇股（カエルが足を広げたような形の部材）とよばれる部材がある。なるほど、先ほどの左右に広がる鳳凰の尾も蟇股のひれだったのかと気付く。この蟇股には違い鷹の羽紋が彫られる。阿蘇神社の神紋に通じるものである。

写真④ 違い鷹の羽紋の蟇股。その下に鋭い歯をもつ魚

その下には鋭い歯をもつ魚が一対、阿吽の表情で波間を泳ぐ。やはり違い鷹の羽紋を見上げているように見える。これは阿蘇神が、日奈久の鳩山に上陸する様子であろうか、それとも球磨川を上る様子であろうか。

正面から本殿を見れば、幅が三間ある三間社である。象鼻と獅子鼻の彫物、花桐、瓜、びわが彫られた蟇股を見ることができる。背面には一間ずつに、菊が彫られた蟇股がある。いずれの彫物も彩色されている。

拝殿は四間の奥行があり、屋根は入母屋造で正面に向拝がつく。吹き放しであるが腰壁がつく。ただし側面の一つには腰壁もない。実は境内のうち、社殿が建つ辺りは階段五段分高くなっているわけだが、腰壁がない側面はこの階段を向いている。境内の低い方から階段越しに拝殿を見上げれば、それはちょうど壇上の舞台のようである（写真⑤）。低い方は八代市指定天然記念物・中津道阿蘇宮の森の大木、玉垣、五段の階段、拝殿に囲まれて、素敵な苔の広場となっている（写真⑥）。

写真⑤ 階段越しに見る拝殿。手前側だけ腰壁がない

写真⑥ 拝殿から見た一段低い広場。左手に球磨川が見える

また拝殿の天井もユニークである（写真⑦）。天井全体が田の字型に四分割され、棹縁（さおぶち）天井の棹が各々、交互に向きを変えている。卍のようにである。

なんとも興味深い神社であるが、さらに境内末社の金比羅神社にも目を転じてみよう。向拝には宝珠を抱き込む雲竜、獅子鼻、象鼻、牡丹。妻飾りは、片面には牡丹に唐獅子、その上に大瓶束（たいへいづか）とよばれ

写真⑦ 拝殿の天井

る束をはさんで左右に亀と鶴が彫られる。反対の面には、竹に虎が彫られ、その上に松に鷹が彫られる（写真⑧）。鷹は阿蘇神社にも通じるものではあるが。末社もまた目を楽しませてくれる。

写真⑧ 末社・金比羅神社の妻飾り

最後に境内横の路地を球磨川へむかって下りていこう。河原から見上げれば石積みの擁壁の上に境内があって、大木が境内を覆う姿を見ることができる（写真⑨）。かつて川面の舟から見上げた神社は、それは立派な神域に映ったことと思う。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

写真⑨ 河原から見上げた境内

漢和字典は面白い

5

鶴上寛治

粗

滅多に単独では使われず「粗粋」という熟語の形でしかお目にかからない。お菓子屋さんの店先に「粗粋」と漢字で書かれていてはお客様には何のことかわからず、まったく売れないだろう。これはオコシなのだ。あの菓子のオコシ。どうしてなのか？　わからない！　いろいろ想像してみよう。

《米ばかり食べている巨大な女？》――その表現に近い体形のお客は腹を立ててまず買わない。逆に《この「おこし」を食べ過ぎると巨大な女になるぞ！というおどし言葉》？　それも売れ行きのブレーキにしかならない。この字がお菓子屋の店頭で見られないはずだ。

包装されている紙に「おこし」と平仮名で書かれていても、女性の下着だと勘違いすることはまずなかろう。お暇な方は国語辞典で「おこし」の説明に目を通してみてください。

騒

〈馬＋蚤〉だが部首は【馬部】？　それとも【虫部】？　まさか【蚤部】ではあるまい。正解は馬部だった。「蚤」はぴょんぴょん跳びはねるので、〈馬が跳びはねる〉＝さわぐ、の意となった。「掻」もやはり蚤のしわざで「痒くなる」ので掻くわけだ。　本当は馬よりも人間の方が「蚤に刺された！」といって大騒ぎするように思えてならない。いや、悪性の伝染病の病原菌の媒介をするのだから騒ぐのは当然か。

馬は蚊や蚤に刺されてもマラリヤや日本脳炎といった、それらを媒介とする悪性伝染病には罹らないのだろうか？　核兵器だ、科学兵器だ、という騒ぎよりかは被害はケタ違いに小さい。もちろん伝染病を肯定しているわけではない。「驚」は人間が馬の能力に敬意を払って作った漢字みたいに見えるが、そうではなく、「敬」は「つつしむ」の意で《馬が身を引き締めておどろく》のだとある。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

くまがわすじの考古地誌

（16）

球磨川筋の弥生時代⑯

八洲開発株式会社　木﨑文化財研究室長　木﨑康弘

（NO.177

「免田式」を使おう！②

夏女遺跡との出会い

今から二九年前、不思議なことがあった。前号に書いた『『免田式』を使おう！① 夏女遺跡との再会」（木﨑二〇一七）のテーマだった。何と、二一年前に発見していた遺跡を、再び発見したのだった。一度発見した遺跡を、再び発見したとは、どういうことだろう。同じ遺跡なのに、そんな二回の発見があるのだろうか。

今から半世紀も前のことだった。錦町立木上小学校四年生の木﨑少年は、両親から買ってもらった、学習研究社刊行の『標準学習百科大事典』を読むのが大好きだった。天体のことや化石のことも好きだったが、特に好きだったのが、『第一巻 日本の歴史』。それも「無土器時代」や「縄文時代」、「弥生時代」、「古墳時代」の話は、本当にワクワクしながら読んだものだ。因みに、その本の奥付を見てみると、初版は一九六三（昭和三八）年一一月二〇日とあり、手にしていたのは、一九六四（昭和三九）年八月一日の三二版の本だったようだ。

そんな好奇心旺盛な少年の興味が身近な畑などに向けられるには、それ程の時間は要らなかった。色々と聞いてみると、高原（たかんばる）というところで土器や石器が拾えるらしい、のだ。「じゃ、行ってみよう」となったのだろう。そんな決意をして、高原台地への登り口にたどり着いたのだが、そうは言っても、高原は広い。どこに落ちているのやら、皆目見当がつかない。だったら聞くのが一番早道だろうと、通りがかりの人にこう尋ね歩いた。

「こん辺りで、土器が落ちとる所に行きたかとバッテン、どっかなかでしょうか。」

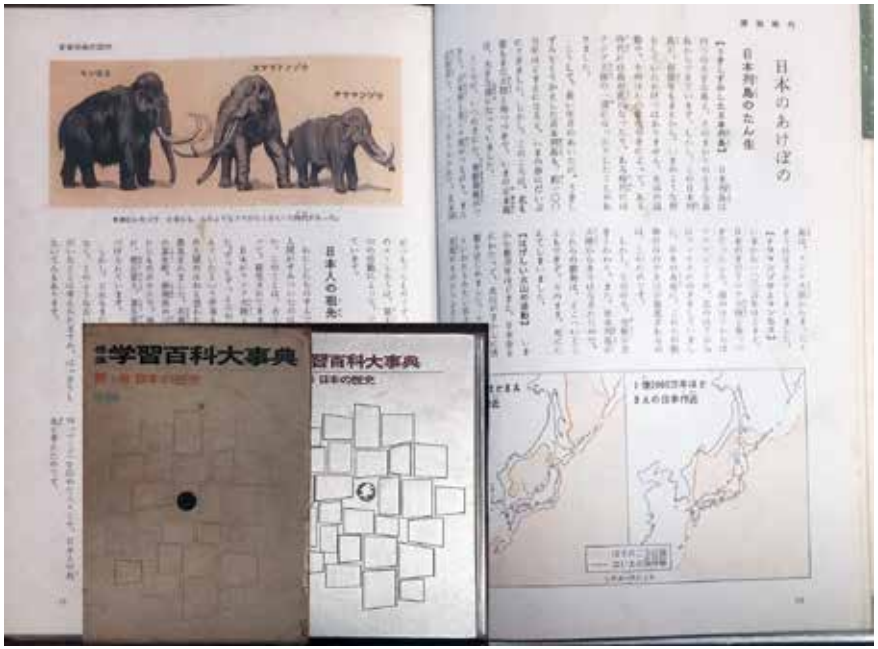
すると、こんなことを教えてくれたおばさんがいたのだった。

「こん道バ登っていきなっせ。行けば畑があるもん。そこに落ちとるバイ。」

「ありがとうございます」と、お礼を言った木﨑少年は、足早やに坂道を登っていった。暫く登って、平たい地形の丘の上に差し掛かると、先の方に高圧線の鉄塔が見えた。何かその辺りにありそうな感じがして、だったのだろうか、自然に鉄塔の間近に立っていたのだった。

少年の視線の先には、真っ黒の土とそこに生えた緑色の草の地面があった。そこに目を凝らすとあるではないか、目指していた土器の破片が。特にたくさん見つかったのは、畑の畔。今でもその光景や感触が忘れられないでいる。

無我夢中で拾う



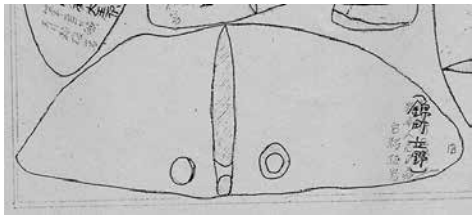
写真「標準学習百科大事典　第１巻」と本文頁

図①夏女遺跡に通った道と周辺の遺跡

こと数十分間、持ってきた袋は満杯になってしまった。そして、その後も何回とはなしに現地を訪れ、土器拾いの日々が何度も何度も訪れることになったのである。そしてそれらは、あたかも戦利品のように、自慢のコレクションとなっていった。

コレクションの中には、甕形土器の脚台部もあったし、重弧文の付いた土器の破片もあった。今思えば、弥生時代後期の土器だったことは間違いないのだが、少年の知識だけでは、それらがいつの時代で、どんな形の土器だったのかは分からなかった。そうはいっても、何となく大昔の人びとの暮らしが身近に感じられて、ワクワク感を感じたのを今でも鮮明に覚えている。

こうして見つけた遺跡ではあったが、その畑に土器や石器が落ちていることは、その少年とその少年に在りかを教えてくれたおばさん以外に知る者はいなかったようなのだ。球磨で遺跡を見つけて、『熊本県遺跡台帳』にその情報を数多く寄せた、また木上村（現・錦町木上）を隈なく調査して『木上村史』を取りまとめた高田素次（高田一九六一）でさえも、立野遺跡（図②）や高原入口遺跡のことまでは知っていたとしても、夏女遺跡のことまでは気付かなかったのである。。そんなことから、この土地のことは、陽の目を見ることなく、誰の注意も引くことなく二一年の歳月が流れたのだ。


図②立野遺跡で見つかった石庖丁

では、どうして最初の発見から二一年後のある日、再度の発見に行き着いたのだろうか。それが、前号で話題にした坂本重義と一緒に行った現地調査の話だった（木﨑二〇一七）。

文化財保護法では、遺跡のことを「周知の埋蔵文化財包蔵地」と呼んでいる。制度的には、その包蔵地が『熊本県遺跡台帳』や市町村が備えている『遺跡地図』などに登載されることで、正式の遺跡とみなされるのである。従って、それに載っていない場所は、どれだけ土器や石器が拾えようが、文化財保護法上では、「周知の埋蔵文化財包蔵地」とはみなせないのである。これは、遺跡を工事などで壊されることを未然に防ぎ、現地保存なり、記録保存なりで、未来に伝えていこうという制度でもあり、そうした選別がおこなわれているのは、当然といえば当然である。何の根拠もなく、「ここは遺跡ですから、発掘が必要です」と言っても、誰も納得しないはずだからだ。

とはいえ、遺跡台帳なり遺跡地図にすべての場所が登録されているわけではないこともまた自明だ。例えば、木﨑少年が発見した土地だってそうだろう。当然のことながら、誰の目にも止まらずに、それらに盛り込まれていない土地はもっといっぱいあるはずなのだ。だから、工事中に遺跡が見つかると、もっと厄介なことになる。そういうことから、工事などの情報が寄せられると、必ず現地を歩いて遺跡があるかどうかを確認しているわけだ。

これが現地踏査、ジェネラルサーベイと呼ばれる調査である。坂本重義と一緒に行った現地調査は、これなのだ。その結果は、御案内の通り。木﨑少年が発見し、大人になった私が坂本と共に、発見したのだ。それが夏女遺跡だった。こうして、夏女遺跡は、私の目の前に二度顔を出してくれたのだった。

（つづく）

【引用参考文献】
・木﨑康弘　二〇一七　「くまがわすじの考古地誌一五『免田式』を使おう！①　夏女遺跡との再会」『くまがわ春秋』第二一号　人吉中央出版社
・高田素次　一九六一　『木上村史　木上村の民話と歴史』木上村史編纂委員会

エンブリー・ノート①
外国人理解

エンブリー夫妻は、昭和10年から同11年にかけて須恵村を調査した。

昭和10年、11年はどういう時代か。

明治維新との時間的距離を論点にすれば、維新（１８６８年）から約70年を経た時代ということになる。この70年の間に、一体なにが、どのように変わったのか。あるいは変わらなかったのか。70年という時間は途方もなく長く、その経路はひどく複雑である。それでも、この70年を巨視的にみることも「須恵村」の位置を考えるとき、不可欠な作業になる。同時に、昭和10年、11年という「時代」も考える必要がある。

昭和８年（１９３３年）、日本は国際連盟を脱退し、昭和12年（１９３７年）には盧溝橋で日中軍衝突、日中戦争が勃発した。それよりまえの明治45年（１９１２年）には、清国が消滅し、大正６年（１９１７年）にはロシア帝国も消滅した。明治43年（１９１０年）に李氏朝鮮が消滅し、朝鮮半島は日本に併合された。同国は、朝鮮民族の最後の王朝。その後、朝鮮半島には統一国家はない。台湾はそれより早く明治28年の日清講和条約によって清国から日本に割譲され、日本の統治下におかれた。維新前に存在した国家は日本だけである。それはなにを意味するか。

このような時代の流れのなかで、須恵村のムラ人たちには世界（外国人）はどのように映っていたか。『須恵村の女たち』は次のように書いている。

「五〇歳以上の女性は、多くの年取った男性と同じく、文盲であり、世界についての彼らの理解は、せいぜい断片的なものでしかなかった。幾人かの女性は、須恵村に嫁いで以来、そこから五マイル（八キロ）も離れたことがなかったし、ほとんどの女性は朝鮮、中国、満州がどこにあり、どれぐらい離れているのかについて、曖昧な知識しか持っていなかった。……朝鮮については、彼女たちはもっとも否定的な見方をしていたし、そこには朝鮮人および中国人にたいする、染みついた嫌悪感があった。だが、すべての人がもっとも軽蔑し、恐れていたのはロシア人であり、……［エラ］は、自分がロシア生まれであることを知られないように、上手にふるまった」（13～14頁）

これは須恵村に固有の状況であろうか。須恵村を超えてどこまで存在した意識状況か。詳細を説明できないが、昭和10年・11年に、須恵村のムラ人たちが朝鮮人・中国人に嫌悪感を有していても不思議ではない。おそらく、ほとんどの日本人がそうであったろう。当時、須恵村には朝鮮人が居住していたが、彼らはそうした蔑視の目のもとで生活していた。ロシア人に対する評価はロシア革命と共産主義に対する「恐怖」の反映であろう。湯前町出身の北御門二郎は昭和８年の東京帝国大学入学前にトルストイに心酔し（昭和８年には小林多喜二が虐殺されている）、昭和13年に兵役を拒否しているが、須恵村の状況が湯前町でも同一であったとすれば、彼に対する社会的圧力はひどく厳しいものであったにちがいない。

『須恵村の女たち
暮しの民俗誌』
ロバート・J・スミス
エラ・ルーリィ・ウィスウェル
御茶の水書房（1987 年）

エンブリー夫妻の須恵村にはじめてきた白人であった。二人は須恵村に溶け込み、ムラ人は二人にいろいろなことを話し親しく接した。それはエンブリー夫妻であったから可能であったのか。それとも白人に対してムラ人は偏見をもたない人びとであったのか。二人でなく、アメリカ人をどう考えていたのか。『須恵村』75頁でエンブリーは「アメリカの夫人は怠け者で靴下を選択しない」といった生糸会社の代理人の話を紹介しているが、商売人による、そういうデタラメ話は住民に少しは影響を与えたのであろうか。エンブリー夫妻の作品はそういうことを考えさせる。

（春秋）

「ロシア」

小山勝清『在る村の近代史』に次の指摘がある。資本主義の浸透にともない、なにごとにも等級をつける傾向が優勢になり、寄付金の金額によって、小学校建設の落成式のご馳走に差がでた。それについて役場役人なら、「物には必ず等級がある。等級のない世の中は、暗黒の世である。過激派のロシアである、とつぶやくにちがいだろう」と（資料版67頁）。同書は大正14年（1925 年）に発行されている。同年は治安維持法が制定された年である。

上杉芳野の「あがっ段」⑳

我が家の初笑い

平成三十年がスタートした。今年は戌（犬）年で、我が家にも「チャミ子」という柴犬の雑種がいる。平凡な顔をしているが、可愛くてとても賢い犬である。

「チャミ子」と名前を付けたのは、娘が韓国のボーカルグループ東方神起（とうほうしんき）のファンで、その中にチャミーとか何とかいう人がいるらしく、その人の名から取ったらしい。又、この犬のチャミ子は飼い主に似て、変人で、門の上に乗って座るのが大好き。

我が家の門の上に座るチャミ子

私たちが何処かに行こうとするとピョンと門の上に飛び乗りズーッと見送ってくれる。それに家族一人一人の車の音を覚えていて家の近くに帰って来ると、ピョンと飛び降りてシッポを大きく振りながら迎えてくれる。

鳴き声もワンワンではなく、フウンフウンと甘え声になっている。

食べ物を与える時も鼻と口の所までエサを持っていき「まだ」と言うと、何分でもヨダレが出ても、絶対エサを食べない。

その間は何回か私を見上げて「もうよかろう〜まだね」と言わんばかりに流し目で見る。

「まだ」と言うと、ショボリして下を向く。

あんまり、まだ、が長いと可哀想なので「よし」と言うと直ぐ、ガボッと食べる。

我が家の主人である謙ちゃんが「このチャミ子は芳野よりマシぞ。まだ、とチャミ子に言うと食わないが、芳野は食うなと言うても、直ぐ食うでね」と言う。

今年は戌年だから大いに可愛がろう。

初笑いといえばこんなことがあった。

年末に息子家族が帰郷して翌日には福岡に帰ってしまった。

帰った後で洗濯物をたたんでいた娘が「あれ、これ誰の?」と上下のジャージを手にしている。私は福岡の中3の孫が忘れていったのだろうと思っていると、「何か足も短くて小さかばい」と娘が言うので、「直ぐに福岡に送ってやらんばんたい」と言いながら主人を見ると、主人が「そら、送らんでよか、おいがっぞ」と言った。

「足の短かかジャージは謙ちゃんがとね〜」と家族で大笑いであった。

早合点して福岡に送らんで良かったと思った。

今年も家族で初笑いがスタートした。

今年は、私がこれまで書いてきた「週刊ひとよし」の六年間と「月刊くまがわ春秋」の一年間分、合わせて七年分の文章が百ページくらいになり、本を出版する事となった。

本のタイトルは「苦難・失敗、笑いにかえて」という題である。

生い立ちから幼少時代、青春時代、そして、今に至るまでの人生を見ていただき、皆さんに少しでも元気になっていただけたらと思う。

どうぞ、今年もよろしく御願い致します。

今年出版予定の本の表紙

【うえすぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】

方言を味わう⑲

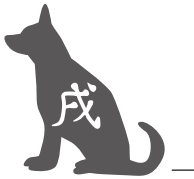
正月雑談　犬と金もうけ

前田一洋

今年の干支は「戊戌」、つまり犬の歳であり、ブームの猫同然にムゾがって欲しい。そうすればきっと『花咲か爺さん』のように、〝ラッキー〟が訪れるはず。また新しく飼う犬には、できるだけ「ポチ」と名付けたい。そして裏の畑で「ワンワン」吠える時には、鍬と特別大きな袋を持って駆け付けること。

もしも日頃の行いに応じて大判小判じゃぬせじに、カワラや瀬戸カゲであったっちゃ、決して諦めちゃならん。昔の粗大ゴミや、タダの廃棄物じゃったいどん、今んとは事情が違う。すぎゃ「産業廃棄物」じゃってたい。

それをば丹念に調べてみれば、重金属やら希少価値のある物質の含まれとって、思わん銭儲けにつながる。ただ隣っの爺どん方で、でけたヒャにゃ要注意。殿様の前でども撒けばたちどころに打ち首。死の灰かもしれんでたい、放射能のひゃっとる。呉々もご用心。



桃太郎と犬

桃太郎さんの鬼ヶ島に行きなっ時、球磨人吉生まれの犬ばかりゃ、「おらいらんばい」ちゅうてキビ団子ばぷっと伐ってしまったのだ。そして中からは美しい姫さまが。

この瞬間、爺さんは大きな〝金づる〟を失ったのである。どうして「この山立入禁止」の札を立ててもどらなかったのか、短慮というほかない。伐ってしまえばそっで終みゃ。

そこを我慢して来年のタケノコ時期まで待っていたなら、根元の光る竹が次から次に生えてくるではないか、早合点は金儲けの敵。

山村と犬

「まちっとでおが車の屋根はコケて来た石で、うっぽぐとこいじゃったばい。されば、イノシシが掘った太か石の霜解けして、山から転るうで来たとじゃら」。「ゆうと庭先までシシどもが出て来て、つながれとるインの鼻先までアセくっちらかすとじゃってまい。カライモから大根ちゅうたふやでごそと」。

山間部の道路や集落では、よくこんな話が聞かれる。イノシシやシカの増えようはそれこそ異常なほど。そう言えば最近は街の真ん中にまで出現、人に危害を加えることさえ。

ところが四十年ばかり前までは、村里近くでシシやシカなどを見かける事は、ほとんどなかった。例え狩りをするにも、かなりの奥山に行かないと獲物はいなかったのである。

なぜか、山間部の犬はみんな「追い放し」であったからである。そうすると「朝狩り」と言って、犬どもは夜明け前狩りに出掛け、そうした害獣を咬み殺していたのであった。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

大損した竹とりの翁

『かぐや姫』の物語には犬は出て来ない、実は犬も連れて山へ行ったのだが、その活躍する〝見せ場〟がないため、省略されているのだ。山間部で暮らす人の家に、犬がいないことはなく、その共同生活は縄文の昔から。

ところで自分の持ち山に入った爺さんは、根元がピッカリコンと光る竹を見付けた。おろて思いながら、きょろきょろ辺りを見回すが、光っているのはその一本だけ。時は平安時代の初期であるから、昼間でさえ〝灯り〟は珍しい。そこでナタでばい」ちゅて、海から集めた宝もんよば、〝山んごと〟持たせてもどしたとげなたい。

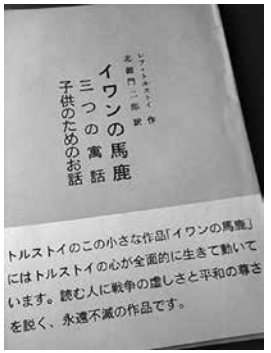
北御門二郎訳でトルストイを読む①

イワンの馬鹿

喜多岡　洋

トルストイの有名な作品である。だから粗筋は述べない。イワンに二人の兄がいたこと、唖の妹がいたことを述べれば十分であろう。以下、読後感を直ちに述べる。

筆者の場合、権力欲はなく戦争は嫌いである。そのためイワンの長兄・セミヨンの行動を理解できない。彼は軍人で軍隊が好きである。戦争もしたがる。他方、次兄・タラスの気持ちは理解できる。理解できるというよりタラス的になっている。最小限の努力で最大の収入を得て、いろいろなものを入手できればいいと思いがちである。一人の弟・イワンはどうか。イワンは人の食べ残しを食べねばならない」の末尾の一文は唖の妹の体験を基礎にしたもので凄みがある。手にたこのある者（農業労働する者）は妹に優しく接したのに対して、たこのない者（労働しない者）は手荒く接したので、右の一文をイワンは約束事にしたのである。



トルストイの入門書としてはなにが良いかと問われて、北御門は『イワンの馬鹿』をあげている（八代人文社『イワンの馬鹿　三つの寓話』（１９９１年３月２月15日）の「訳者条文」参照）。

北御門訳とは別に、岩波文庫の中村白葉訳も読んでみた。中村訳もいい。少し古風で意味を取りにくい箇所があったが、読みづらくはなかった。訳者・中村の解説は有益であった。北御門訳は読みやすく、その「訳者序文」は必読だろうと思う。

（１８９５年発表　１９７２年８月27日　北御門訳）

【きたおか・ひろし／八代市】

北御門 二郎・訳
トルストイ短編集

新たに編集された「カフカーズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壷のアリョーシャ」「贋造クーポン」の5本を収録

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

■A5 判／並製本／192 頁
■定価 1,500 円（+税）
送料 100 円

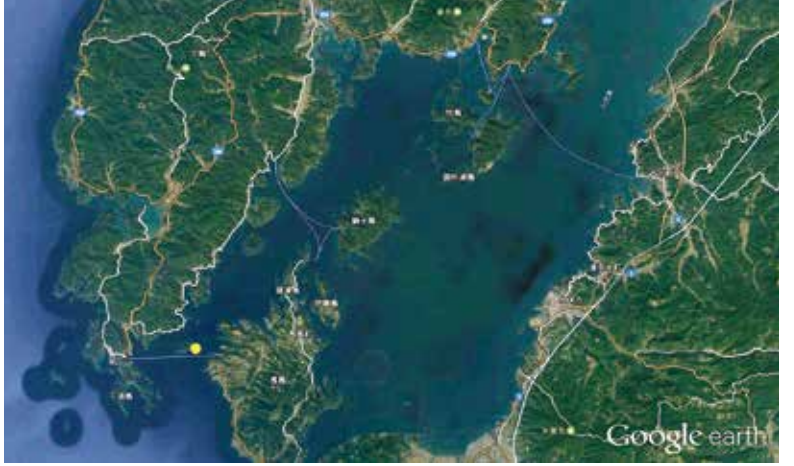
帝政ロシア時代の物語を
北御門二郎の「心訳」で贈る
現代人へのメッセージ

直販の申込は
〒868--0015　熊本県下城本町 1436-4 の３号
TEL・FAX0966-23-3759　info@hitoyoshi.co.jp
人吉中央出版社

新・日曜釣り師心得④

相良藩の御用船の航路で

宮原赤竿



静かな海域の八代海。ここを相良藩がスイスイとどこでも行き来していた
黄色い点が戸島の瀬　© Google

昔の相良藩は、ちゃんと海の船を持っていた。球磨川を行き来する川舟ではない、れっきとした海運の御用船である。

係留していたのは現在の芦北町で船の名は「市来丸（いちきまる）」。

そこから、真っ直ぐ真西へ、お日様が沈む方に向かえば、御所浦島と獅子島の間に入ることが出来る。

まず獅子島（鹿児島県最北端）の話を少し。実は、相良藩は獅子島も治めていた。獅子島では、元の獅子島のお殿様が「弓矢」で射止められ亡くなったそうで、今でも「弓道」や「弓」の話をすると島の人達はシンミリするという。

その話は、山江村の元村長、故犬童忠利さんから教えて頂いた話だが、獅子島の神社にも確かにそのことが紹介されていた。

その獅子島から北の天草へ進み上島と下島の間にある本渡瀬戸を通ると、本渡を抜けて五和町御領に直通出来る。そこには石本家という相良藩が貿易を任せた豪商がいた。そこから長崎は目と鼻の先である。

獅子島の北では下げ潮に乗ることができれば、そのまま動力無しでも、長島海峡を抜けることが出来、何と天草下島の牛深へ行けるのだ。

現在は、その長島海峡には八代港へ向かう大型旅客船が海峡を所狭しと通過していく。まるで、ビルディングの海上移動である。しかも深夜に入って来て海峡を通る姿は、八代の花火と同じくらい大きくて美しい。

私は八代海で小さな瀬渡し船から見たことがあった。レーダーの中の大きさはスクリューが押し出す海水もレーダーに映るほどで、近づいて行くと、その船は10階建てのビルより大きかった。

牛深と長島を往復するフェリーが目の前を通過する戸島の「崩れ」にて

話をもどそう。

だから相良藩の船は芦北から船を出し対岸の御所浦島、獅子島、天草、牛深、そして長崎までもスイスイと行き来できたのだ。

本日、乗っている磯は長島海峡の出口の「戸島」の離れ瀬にいる。

朝からの満ち込みの潮は、グンと海底から押し上げて来る様な潮だったが、下げ潮となるとまるで違った。

何と球磨川より大量の海水を、渦巻きながら、激流となって八代海の海水を東シナ海へ打ち出している。

油断すると、そのまま、天竺（てんじく）へも流される勢いなのだ。

昔なら、この長島海峡は何者も侵入出来ない海峡であり、ここを知らぬ者は危険を察知して海峡から中には入らない。

それほどに激流なのだ。

それはまるで、八代海に打ち出す球磨川の激流を、海から他の国衆の水軍が相良藩に侵入しようにも、激流のために上流には行けない、その条件と同じなのだ。

悠々と潮は流れた。

「さあて、釣りをしましょうか」。

長島海峡の打ち出しに位置する戸島の崩れという磯にいる。いよいよ今年の磯釣りを始めましょうか。

みなさん、今年もよろしく御願いします。

【みやはら・せっかん／熊本飛翔会会長、人吉市】

荒瀬ダムと瀬戸石ダム①

電源開発は、平成22年（２０１０年）から、瀬戸石ダム下流域住民に同ダムの操作方法などについて説明を開始した。残念ながら、不十分な説明であった。同社は、同年３月末に荒瀬ダムの水利権が失効しダムゲートが全開になるとは予想せず、その結果、すべてについて準備不足であった。

荒瀬ダムが存続するならば、瀬戸石ダムはそれまでと同じように運用すればよく、住民に説明すべきことはなにもないと考えていた。

瀬戸石ダム

しかし流域住民からすれば、荒瀬ダムの水利権失効・撤去は既定の方向であった。潮谷義子熊本県知事は、流域住民・球磨川漁協の要望にこたえ、平成14年（２００２年）12月の県議会で、荒瀬ダムの完全撤去を宣言し、同ダムの水利権についても、同ダムの撤去を前提に、その準備期間として翌年４月から７年間の期限付で申請し、国交省もそれを認めていた。ダムの有効性をめぐる議論は荒瀬ダムではなく川辺川ダム建設問題に集中することにもなった。

しかしながら平成20年（２００８年）、蒲島郁夫知事の登場によって状況は一変した。蒲島知事は同年３月５日、東京大学を退職し３月23日の熊本県知事選挙に無所属で出馬し当選。４月16日に正式に知事に就任した。それからわずか１ヶ月半後の６月４日に、荒瀬ダム撤去を「凍結」すると発表した。撤去財源の不足をその理由としてあげたほか、「未来エネルギー研究会」の指摘に接したことが「凍結」表明にきっかけになったと説明した。蒲島知事は、同年11月27日に、「凍結」を「存続」に「すすめ」、荒瀬ダムを「存続」させると表明した。

翌年（平成21年）８月30日に、衆議院選挙が実施されて民主党が大勝し（民主３０８、自民１１９、公明21）、９月16日に民主党政権が誕生した。民主党はダムの有用性に懐疑的であったが、蒲島知事は荒瀬ダムの存続に自信をもっていた。翌22年１月14日、蒲島知事と住民団体は前原誠司国交大臣と別々に面談した。その直前まで知事は自己の主張を国も認めるであろうと信じて疑わなかった。ところが同大臣は、①荒瀬ダムの水利権は３月末日に失効する、②水利権の更新を申請するためには漁協の許可が必要で、審査期間は５ヶ月ほど要すると発言し、荒瀬ダムの存続の可能性を明確に否定したのであった。蒲島知事にとって、前原発言にショックを受け「だまし討ちにあった」と怒りをあらわにした。荒瀬ダムの担当部局・企業局も、国を相手に損害賠償請求を提起すると強気であった。知事の発言、企業局の動きをみると、国交省は水面下で荒瀬ダムは存続可能であるかのように熊本県に説明していたのであろう。そうでなければ、「だまし討ち」とか裁判の話はでてこない。

同年２月３日、蒲島知事は妥協策として荒瀬ダムの撤去を２年間先送りするとの方針を出し、それに合わせて企業局は２年間の水利権更新を申請した（２月24日）。なぜ、「２年間の水利権更新」か。知事は、２年間の発電事業で撤去費用を捻出するためであると説明した。「２年間」は知事の残りの在職期間でもあった。国交省は同提案に同意しなかった。熊本県議会も荒瀬ダムの存続を前提にした予算案を全会一致で否決した。蒲島知事は、どうにもできなくなり、荒瀬ダムの存続を断念した。それは荒瀬ダム水利権失効の１週間前であった。

こうした経緯は電源開発にとっては「想定外」のことであった。同社は知事や企業局と同じく荒瀬ダムは存続するだろうと考えていた。個人的会話のなかで、「私たちは被害者である」と話した同社社員の戸惑いの様子を思い出す。

（春秋）

〈未来エネルギー研究会〉

平成20年（2008年）1月30日に設立。旧通産省の水力課長のほか、「戦後の電力再編や国内外のダム建設に数多くかかわった」人物がメンバーであった（熊本日日新聞2008年7月3日）。同会は、4月15日付で、「荒瀬ダム撤去及び藤本発電所廃止の再検討について」と題する要望書を蒲島知事に提出した。

〈樺島知事のダム論〉

蒲島知事は、平成20年（2008年）9月定例県議会で、川辺川ダム建設計画について白紙撤回を表明する（9月11日）一方、荒瀬ダムについては存続の方向にすすみ、路木ダム（天草）、立野ダム（阿蘇）についても積極的に推進した。蒲島知事はダムをどのように理解しているのであろうか。これについては、おって、説明する。

外来語から学ぶ英単語（22）…… 藤原　宏

マグマ　と　マス
magma　mass

この２語は印欧語根 **mag**（こねる）から派生した同根語です。「**mingle**（ミングル）、混ぜる」も同系です。

「**magma**（マグマ）、岩漿・半流動体の沈殿物」は、ギリシャ語「**magma**（マグマ）、こねた塊」、ラテン語「**magma**（マグマ）、どろどろしたもの・残りかす」を経て英語に入りました。

「**mass**（マス）、大きな塊・大きな集まり・多数・多量・大部分・一般大衆」は、ラテン語「**massa**（マッサ）、塊・大麦粉の塊をこねてつくられる菓子」、フランス語「**masse**（マス）、塊・多量の集り・大多数・大衆・全体・総量・質量」を経て英語に借用されました。

mass は次のように多くの複合語に使われます。

「**mass communication**（コミュニケーション）、マスコミ・大衆伝達」

「**mass media**（ミーディア）、マスメディア、 ラジオ・テレビ・新聞・雑誌などマスコミのための媒体」

※日本語のマスコミは英語では「**mass media**」に当たります。

「**mass production**（プロダクション）、大量生産」

「**mass consumpion**（コンサンプション）、大量消費」　**(388)**

ひろしの…　げっかん・ぎひょう

―あけまして　おめでとうございます―

新しい年を迎えましたが、今年も大変な年になりそうです。政治の暴走を止めて、子どもの未来を守る年にしたいものです。

愚考愚問
「女の黒髪・男の黒髪」

冨永和信

まことに愚かな話で恐縮の極みであるが、人間の頭髪の総数は凡そ何本位あるのだろう。もちろん男女差、個人差があるので一概に言える話ではない。幼少の頃、人間のほうが猿のそれより三本多いとヨタ話で聞いたことがある。

今、私は傘寿を過ぎ齢（よわい）八十四ま近である。特に寝込むような病気をしない限り毎日三百六十五日毎朝洗面し、少ない髪に櫛を入れる。白色の洗面台に弱々しくなった髪毛が少ない時で十本前後、多い時は二十五本強が無残にも落ちている。単純に平均すると一日当たり約十九本の脱毛で年間六千九百三十五本の勘定である。

還暦から今日まで概算するとなんと無情にも約十五万九千五百本となる。これでは前頭髪は無くなり全体で薄毛状態となる筈である。しかし昔日のフサフサの黒髪の面影はないが、白黒マダラの薄毛が少しは残っていることから推測するに、落毛のあと何パーセントかがこの枯葉の齢になっても育毛されているのではないかと思う。髪全体の体裁からいうと白黒混合より白一色になって欲しい。

親しい友人のひとりに限りなく禿（はげ）に近くなったのがいる。彼に「散髪に行かんでもよいから散髪代が要らんではないか」と言ったら「馬鹿を言え、回数は減ったがチャント散髪に行っとる。髪の毛は少ないが料金は全く同じだ」とこぼしていた。

つまり男の髪なんて大体こんなところに落ち着くのが通常である。しかし一方で、ある国会議員の先生が自分の秘書に「この禿～」と罵倒して暴行した事件があった。世間体的には暴行のほうより「禿」のほうが後々まで尾をひいた。こと程左様に頭髪は人間にとって大事な象徴的なものとなっている。

確たる根拠はないが人間のみならず、動物が生きて行く上で大事な部所を防御する必要性から毛が残って（毛

が生える）いるとされた。

男性の場合はこの位で話は済むのであるが女性の髪となるとそうはいかない。

我が国では古来より「黒髪」を取り上げた歌や詩が数多く詠まれてきた。この場合女性の黒髪ばかりで男は見当たらない。男性では様にならないから当然の話である。

古くて代表的な歌が百人一首にある。

「長からむ心も知らず黒髪の乱れて今朝はものこそ思え」待賢門院堀河

これは平安朝の男女間の恋愛感情を女性の繊細な心を詠んだものとして有名である。

さらに明治以降では与謝野晶子の「みだれ髪」から勝手に三題、いずれも女性の髪である。

「黒髪の千すじの髪のみだれ髪かつおもいみだれおもいみだるる」

「その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな」

「歌にねて昨夜梶の葉の作者見ぬうつくしかりき黒髪の色」

もう一つ蛇足を加えれば黒髪ではないが現代版・星野哲郎作詞の塩谷岬の「みだれ髪」があり、美空ひばりが女性の失恋の情を切々と歌っていた。

外国のことは不勉強で分からないが、わが国に限って見れば「黒髪」と言えば女性の繊細な心情を表現する象徴のようである。

ここまできてはたと困った。よく現状を見ると緑の黒髪どころではない。若者を中心に茶髪なるものが流行ってそれが違和感なく見える時代に変貌している。いや、若い人に限らず女性高齢者をみるがよい。茶髪どころかピンクや黄、紫など色とりどりで、生き生きと生活をエンジョイしてござる。

男性の黒髪は百年一日の如しで詩歌にもならず「禿」とやられるのが関の山であろうが、あの世に逝って髪はどうなるのだろうか。このまま、なるがままでは西方浄土の道にも程遠く、閻魔様の裁きを受けるのであろう。

鳴呼南無さん。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

今月の詩（うた）　㉑

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第 35 号（2009 年 3 月発行）　選・作文の会

ワンステップ

人吉二中　一年　土屋　研太

汗がふきでてくる
早く終わらないかな
「ナイスランだったよ。」
友だちの一声できつさを忘れて笑顔になる
「よし、もう少しがんばろう。」
このくり返し

足が重い
早く終わらないかな
数分間の休憩
ほんのひとときのリラックス
体が軽くなる

「よし、もう少しがんばろう。」
このくり返し

ついに大会当日
胸がドキドキ
「でも、精一杯がんばる。」
足を前にのばして、上に上げて
期待した以上のタイム
「良かった。」
「次もがんばる。」
このくり返し
このくり返しで強くなる

【評】「よし、もう少し―」／このくり返し／を何回も何十回も土屋くんは体験したのでしょう。三連という限られたシーンから、自分を励まし、前へ前へと一歩一歩進んでいる、たくましい姿が浮かんできました。

同級生「李・哲」とのソウルの旅

李哲さんを救う会全国連絡会代表　宮﨑　勇市

李哲救援会全国連絡会inソウル

昨年6月29日から7月2日まで「李哲救援会全国連絡会inソウル」に参加しました。目的は、ソウルの西大門（ソデムン）刑務所歴史館に常設された「在日同胞良心囚・苦難と希望の道」展示室見学と、李哲（イチョル）さんの義母「趙萬朝（チョウマンチョウ）さん」の墓にお参りすることでした。

きっかけは、２０１５年12月５日に李哲さんが帰郷し、「李哲無罪勝利報告集会」を人吉で開催したことでした。その時、「次はソウルでやろう」ということになり、実現したものです。東京から３人、大阪から５人、熊本から４人が参加し、韓国から６人が合流しました。日本から参加した人の中には人吉高校の同窓生が多くいます。これだけでは読者の皆さんには何のことかわからないと思いますので少しずつ紐解いていくことにしましょう。

明洞大聖堂の前で

李哲（イチョル）さんのこと

李哲さんは錦町出身の在日韓国人です。１９６６年に人吉高校を卒業しました。中央大学を経て１９７１年、韓国の高麗大学大学院政治外交科に入学し、将来の大統領を夢見る青年でした。

李哲さんが大学を卒業し、閔香淑（ミンヒャンスク）さんと婚約した１９７５年、韓国中央情報部に逮捕され、「北のスパイ」として死刑判決を受けます。婚約者の閔香淑さんも幇助罪で有罪判決を受け服役することとなります。

「北のスパイ」

１９７０年代、韓国は朴正熙の軍事政権であり、李承晩・朴正熙・全斗煥と軍事政権は続き、権力機関が行ったさまざまな民衆弾圧・虐殺事件を繰り返します。そのひとつが「北のスパイ」で、自らの政権維持に不都合な人物をスパイとして拘束虐待しました。特に在日韓国人（韓国では「在日同胞」と表現します。）に対しては１９７０年代中頃から少なくとも80数名から１５０名ほど（実数は把握されていません）がスパイとして拘束され、ひどい拷問の末死刑など重い罪に落とされました。

その中の一人が李哲さんでした。このようなひどいでっち上げを正当化したのが、日本の戦前の「治安維持法」を下敷きにした「反共法・国家保安法」でした。李哲さんやその家族が日本での民族差別と韓国での「在日同胞」への差別に怒り、苦しんでいたかがよく分かる文章があります。李哲さんの義兄・金秀顕（キムスーヒョン）さんが「我生きんと欲すれど」に書いています。

「朴大統領閣下！　私及び李哲は、あなたの国、即ち我々の母なる国を離れて、日本に捨て置かれた一遺棄民として、その国語、歴史、風俗を独学で学び、二世というハンディキャップをやっと克服して、純韓国国民に同化しようと努力してきたのに、その実が熟す直前に再び国を捨てろと仰るのですか。我々が、この日本で、国家の尊厳を傷つけまいと、各個、努力勉励して積み上げて来たものをすべて捨て去って、元の『半日本人』に帰れといわれるのですか。」

助命嘆願運動と「名誉」の回復

李哲さんが逮捕拘束されたニュースは人吉球磨でも話題となり、出身地の錦町議会をはじめとして相良村議会、熊本県議会など多くが「助命嘆願」議決をし、日本政府、韓国政府に働きかけました。李哲さんの同窓生、人吉球磨の労働組合などで「李哲さんを救う会」を作り、人吉駅前で7日間のハンガーストライキをおこなったこともありました（１９７７年）。全国でも人

吉高校同窓生を中心に救う会が結成され、何度も韓国に足を運び李哲さんに面会し励まし続けました。

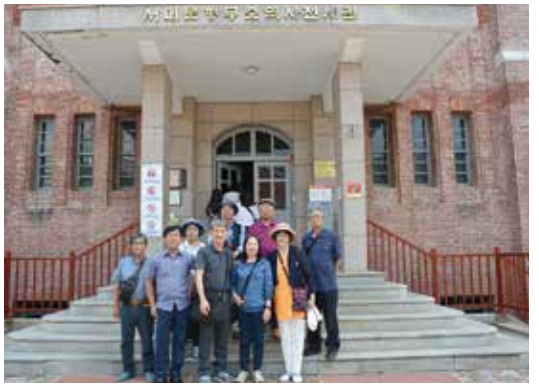
１９７９年、関香淑さんは刑期を満了し釈放されました。それから関香淑さんと趙萬朝さんは、李哲さん等の釈放に向けてアメリカ政府や国連、バチカン市国など全世界へ発信し、助命を訴えました。二度の減刑を経て、１９８８年10月４日にソウルオリンピックの恩赦で李哲さんは釈放され、10月23日に関香淑さんと結婚しました。婚約からなんと13年が経過していました。

こうして、李哲さん等は自由の身になりましたが、特赦による釈放であり、「罪」が消えたわけではありません。その後も無罪を勝ち取る闘いは続くのです。ようやく完全無罪を勝ちとったのが逮捕から40年後の２０１５年７月でした。そして、２０１５年12月５日の「李哲無罪勝利報告集会」の人吉での開催となったのです。

西大門（ソデムン）刑務所歴史館

今回の大きな目的のひとつに西大門刑務所歴史館に常設された「在日同胞良心囚・苦難と希望の道」展示室見学があります。

西大門刑務所歴史館は、日帝時代に日本が造った刑務所です。解放後も刑務所として使われました。今は郊外に移設され、日帝時代の刑務所は独房・雑居房・女子棟・処刑場・運動場・炊事場・拷問の道具等々が当時のまま残され歴史館として学習の場となっています。李哲さんも妻の関香淑さんも入れられていました。その十一獄舎三番房が「在日同胞良心囚・苦難と希望の道」と題して、いわゆる在日韓国人政治犯の人たちの苦難と闘い・日本での救援運動が紹介されていま



西大門刑務所資料館の前にて

す。そして、この十一獄舎三番房こそが李哲さんが入っていた房なのです。

突然の「ごめんなさい！」と「ありがとう」

私たちが、三番房の見学を終え出てきたとき、入れ替わるように20人ほどの女子中学生が先生に引率されて入ってきました。早速李哲さんが説明し案内します。展示されている本人が説明するのですから説得力があります。見学を終えて私たちがいる廊下に出てきました。するとその中の一人の子が、李哲さんに向かって涙を流しながら日本語で「ごめんなさい」と頭を深々と下げました。日本が好きだというこの子は、「在日同胞の事件のことを知らなかった。私たち韓国人が同じ韓国人である在日同胞に酷いことをして、ごめんなさい」という思いで頭を下げたのでした。そして彼女たち全員が横一列に並び、私たちに向かって日本語で「ありがとうございました」と頭を下げました。

中学生に説明する李哲さん

「在日同胞のために救援運動をしてくださってありがとう」ということでした。私たちも感動です。そのあと台湾から来ていた日本語を学んでいる大学生とも短い交流ができました。私たちは、重い内容の刑務所見学にも関わらず、何か爽やかなものを胸に感じつつ西大門刑務所歴史館を後にしたのでした。

明洞（ミョンドン）大聖堂

二日目の朝、明洞大聖堂に向かいました。趙萬朝オモニ（関香淑さんの母）は、李哲さん、関香淑さんが獄に繋がれている間毎日のようにお祈りしていたと聞きました。

ここはとても大きな教会で、李哲・関香淑さんの結婚式もここで行われました。式が終わって大聖堂から出

てきた二人をたくさんの学生たちが取り囲み、装飾されたトラックの荷台に二人を乗せ、明洞（ソウルの中心街）パレードに出発しました。もちろんトラックの後には学生達が隊列を組んで続きます。大聖堂の外には大勢の機動隊員がパレード規制に出動していました。結婚式に機動隊が出たのでした。

朴槿恵政権を倒したキャンドルデモは、光化門からまっすぐ伸びる広い道路で大々的に行われましたが、民主化闘争のころは、明洞大聖堂がデモの出発地点でした。たくさんの横断幕やテントが張られて大聖堂前の広場から闘争が始まっていました。李哲さんはソウルにいるときは毎朝ここに礼拝に行くと言っていました。

モラン公園墓地

朝食（明洞大聖堂近くの朝食専門店で、牛肉のスープはとってもおいしかった）を済ますと、ソウルの中心地から車で約一時間の所にある「モラン公園墓地」に趙萬朝オモニの墓を訪ねました。

趙萬朝オモニは、娘と婿を逮捕投獄され、一人で救援活動をし、韓国内で知られるようあらゆる手段を駆使して駆け回りました。日本から渡韓する救援会関係者は皆、オモニを頼っていきました。誰彼の救援会に関係なく渡韓した救援会と行動を共にし、一体となって活動しました。運動の過程で韓国の民主人士とオモニは広く知り合いました。救援会のメンバーと金大中氏に会いに行くこともたびたびでした。

モラン公園墓地には、労働運動で倒れた人・学生運動で亡くなった人・

オモニの墓を囲んで

民主化に向け法廷で闘った弁護士・教会から民主化を訴えた神父・牧師・子どもの後を継いで闘ったオモニ……そうそうたる方たちが祀られています。そして、李哲さんはその一人ひとりについて丁寧に説明をしてくれます。今韓国が民主化し繁栄をしている原点を見た思いでした。

民主化に貢献した人々が祀られているモラン公園墓地

「在日良心囚のオモニ（母）趙萬朝の墓」と書いてある墓標を説明する李哲さん

いま日本は、マイナンバー制度、盗聴法、秘密保護法、安保法制、共謀罪等、市民生活のあらゆる分野で監視され、あるいは密告され、民主主義が壊されて行こうとしています。私達は、韓国の人々の闘いに学ばなければならないところが多くある様に感じました。

趙萬朝オモニは12年前に亡くなったのですが、ソウル市営の共同墓地の納骨場に祀られていました。李哲・閔香淑さんの無罪が確定したのを機に墓を移そうと墓地を探したところ、趙萬朝オモニは立派な民主人士だから、ここに祀られて当然みたいにしてモラン公園に移ることになりました。昨年10月に移されたのですが、救援会がまとまって墓参したのは初めてです。墓石には「在日同胞良心囚の母・趙萬朝の墓」と刻まれています。

今回参加した皆が趙萬朝オモニに敬意を表し、お参りしました。そして、韓国式に皆でお墓の前で昼食を共にし、趙萬朝オモニを偲びました。

非武装地帯ツアー

人吉から参加した4人は滞在を1日延ばし、3日目に非武装地帯

のツアーに参加しました。板門店（パンムンジョム）ツアーを希望したのですが、両国の軍事緊張で一般見学が出来なくなっており韓国が「休戦状態」であることを痛感しました。

バスは臨津江（イムジンガン）に沿って走ります。途中から非武装地帯の鉄条網が見え始め休戦ラインに近づいてきたことがわかります。

途中「自由の橋と望拝壇」に立ち寄りました。北と南に分断された家族がそれぞれの家族を思い、祈りを込めた地です。「北」へ続く鉄橋はケソン工業団地へと続いています。この鉄橋は両国の緊張で現在は閉鎖されています。自由の橋に張られた鉄条網とそれに結びつけられた布に「統一」への思いが凝縮されています。赤さびた日本製の蒸気機関車（D51）も戦争を想い起させました。

38度線は幅4㎞の休戦ラインです。ゲートを越え軍事境界線の中に入ると道路の横は地雷原となっています。その中にある都羅山（ドラサン）展望所からは、はるかに北朝鮮の山々が見えます。この休戦ラインの中には、北も南も集落があり人が住んでいます。しかし、北の集落は人がほとんどいなくなっており生活は厳しくなっているのではと説明がありました。

もう一ヶ所、「北」が掘ったというトンネルを見学しました。ここは軍事施設で中は撮影禁止です。入り口は立派に整備されており急な下り坂を歩いて行くと素掘りのトンネルとなっており、人がやっと通れるほどのトンネルで堅い花崗岩を掘り抜いて入り口から軍事境界線の下まで数㎞あると説明を受けました。皮肉めいていますが「北」が掘り「南」が完成させたトンネルともいえます。このようなトンネルが4ヶ所発見されており、今回見学したのは第3のトンネルでした。いずれもその方向はまっすぐに30㎞南のソウルの方向を向いており、いざ戦闘ともなれば多くの兵士を送り込む計画だったのでしょう。

北朝鮮の遠望

民主主義について考える

今回の韓国の旅は、日本と韓国の民主主義の成熟度を見る旅ともなりました。ソウルの市街では、毎週どこかでデモがあっていると李哲さんは言っていました。私達もいくつかのデモに出会いました。李哲さんの説明によれば、ひとつは鉄工労働組合のデモで、もうひとつは、朴槿恵（パククネ）元大統領を擁護するデモ、いずれも警察は静観するだけです。李哲さん達をはじめ多くの人々が命がけで勝ち取った韓国の民主主義の今を見た思いでした。

一方、日本では秘密保護法や共謀罪など反民主的な法律が次々と成立し、明日にでも憲法を改悪しようとしている時になかなか市民の動きが見えないのは、日本がすでに民主国家ではなくなったのではないかと感じることもあります。

韓国でも日本でも私達市民が声をあげなければこのような権力に押しつぶされてしまいます。現に韓国でも2012年に市民がスパイにでっち上げられる事件が起こっています（韓国ドキュメンタリー映画「自白」による）。決して、軍事政権下で起こった在日韓国人の事件で終わったわけではないことを物語っています。日本でも秘密保護法や共謀罪などが成立した今、市民にむけこのような権力行使がないとは言い切れません。

作家塩野七生さんは、NHKのインタビューで「民主主義は取扱注意」と語り、「より多くの人間の意見を集めたら、より正しい政策に行き着くかというと、なぜか、そうではないんですよね。ヒトラーだって民主的に選ばれたんです」と語っています。

もしソウルを訪ねることがありましたら是非、西大門刑務所歴史館を見学していただき、日帝時代の痕跡とそれを継承した韓国の軍事独裁政権時代の民衆の苦しみを感じていただければ、と思いながら福岡空港に降り立ちました。

【みやざき・ゆういち／球磨郡湯前町】

倉敷便り ⑬

倉敷 オリーブガーデン の奇跡

絵と文／原田 正史

私が週五日、デイサービスを受けている倉敷市老人養護施設オリーブガーデンでの楽しみの一つは、午後に行われるカラオケです。歌の好きな人はカラオケ会場である二階へ上がります。

私も五十代の頃にかなりカラオケにはまりました。そのきっかけとなったのが、頻繁に開かれた親戚との会合でした。会合での話し合いが終わると必ず宴席となり、カラオケが始まりました。私の親戚には歌の上手な人が多く、歌が下手な私には殆どマイクが回ってきませんでした。そこで歌の上手な人たちのようにバイブレーションを入れて歌いたいものだと一念発起して練習に励みました。しかし声をふるわせることは容易ではなく、喉に手をあてて声帯をゆするなど色々と試みましたが、全く効果が認められず、残念ながら諦めざるを得ませんでした。したがって、その後の宴席でもマイクは私にとって無縁のものでした。宴席の度ごとに、私の自尊心は深く傷つけられたのでした。

オリーブガーデンの玄関

オリーブガーデンに来た最初の頃、周囲の人たちにすすめられて二階へ上がり、マイクの前に立って一曲歌いました。すると驚いたことに、これまでどうしても出来なかったバイブレーションが見事に入ったのです。六十歳で退職して以来、倉敷に移住するまでのおよそ三十年間、全く歌うこともなかったのに、更にバイブレーションの習得を試みて失敗した五十歳代の時からとなると遙か昔のことなのに、バイブレーションは時空を超えて、しかも完成された形で実現したのです。失敗続きのバイブレーションが、どうして表現出来たのかは説明できませんが、我がことながら不思議な現象という他はありません。しかもバイブレーションは、最初に歌った一曲だけではなく、どの歌であっても自由自在に入れることが出来るようになっていたのです。

私のカラオケ会場での座席は、中央から少し離れた南側の長椅子です。そのうちに人の出入りが多い長椅子が嫌になり、北側の洗面所付近にある回転椅子に移りました。そこはオリーブガーデンで最も重度の障害者であるA子さんに、歌を聞かせるための場所でもありました。A子さんは身動き出来ない状態ながら耳は良くて、歌声に十分反応されるとのことでした。A子さんは現在、七十歳。オリーブガーデンに初めて来られた五年前には車椅子を使う生活ながら、見ることも話すことも問題なかったそうです。ところが三ヶ月前に突然、病状が急速に悪化して全身麻痺となり、話すことも出来なくなり、瞼も閉じたままとなり、更に食事も胃に管を通して流動食を流し込むことになったのだそうです。

A子さんの介護については、この物語の主人公ともいえる介護職員である宮原敏子さんを中心として、全職員がそれぞれの立場で一致団結して協力されたものだと推察します。

このような状況のもとで、全く予想しなかったことが起こりました。平成二十九年八月三十日の午後のことでした。私はいつものように二階のカラオケ会場に上がり、定席である北側の回転椅子に座っていました。そこにはすでに、宮原さんによってAさんが車椅子で運ばれて来ており、彼女の両足が私の横にありました。A子さんはいつものように瞼を閉じて、カラオケの方向に向いた斜の姿勢で車椅子に乗せられていました。この日のカラオケ担当職員は、歌が上手で美声の持ち主でもある、若い三谷原美穂さんでした。たまたまその時、利用者である男性が、三谷原さんに「セリフは私がやりま

すから、歌をお願いします」と依頼されました。依頼された歌は「瞼の母」でした。やがて三谷原さんの美声が会場に響きわたった時のことでした。何と、もの言わぬA子さんが意味不明ながらも、短い時間ながらも目を見開いて三谷原さんの歌声に反応して、高く低く声を発し、つまり歌ったのです。この瞬間、私は一人だけでオリーブガーデンでの、そしてこの倉敷での奇跡を見たのです。

私はカラオケが終わった後、この奇跡の発端をつくった三谷原さんをはじめ、会場にいた職員さんたちに「A子さんが目を開けて唄を歌ったよ」と伝えたら全員が、我がことのように喜んでくれました。更にことのことを宮原さんに伝えようと一階に下りました。一階の居室にA子さんと一緒におられた宮原さんに、二階で起きたことをお話しした途端、宮原さんは辺りをはばからず大声を上げてワァーと泣きだされ、その両眼から涙があふれました。まさに万感に満ちた珠玉のような涙でした。宮原さんの泣き声を耳にしたA子さんが、目を閉じたままながらもその時、再び声を発しました。

私にはその意味不明な叫びが「宮原さん、本当にありがとう」と聞き取れました。そして人と人との心がふれあう、美しい情景を目の当たりにした私は、あふれ出る涙をこらえることが出来ませんでした。はらはらと落ちる涙は、九十年の人生にして初めて味わうことの出来た、半人前以下ながらも九州男児の貰い泣きだったのです。

私は人様を讃える地位も名誉も、更にはお金もありません。しかし誌面での表彰は可能です。したがって宮原さんに対し、更にはその具現例とも言うべき倉敷オリーブガーデンの奇跡実現に大きく寄与されたことを讃え、ここに「倉敷ナイチンゲール」の称号を設定して、その第一号を贈ります。今後とも私が尊敬してやまない、親切で気配り豊かな宮原さんをはじめとするオリーブガーデンの全職員の皆様に、幸多からんことを心より祈念申し上げる次第です。

オリーブガーデンの前途に栄光あれ!!

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

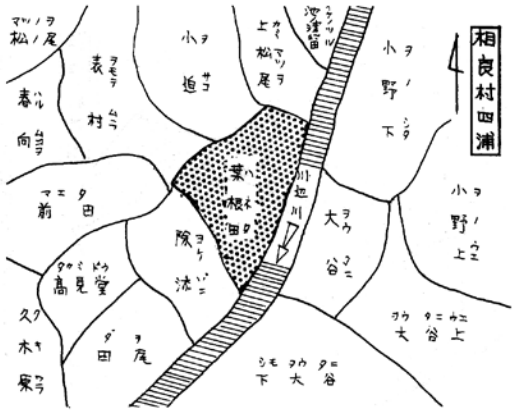
復刻掲載

字図で見る球磨の地名 ㉑ 上村重次

葉根田（ハネタ）

―相良村四浦―

四浦字葉根田は川辺川右岸に面する。元は初神村の小字であったろう。ハネ地名は全国区型で数も多く、表記の文字も種々ある。また微小な通称地名から村名といった広域地名まである。東京都大田区の羽田は空港があって国際的に知られる地名であるが、四浦の葉根田と同意地名と考える人はいないだろう。



地名用語は当て字が多く、文字通りには受け止められないのが普通である。葉根田も羽田も例外ではない。ところがハネ地名を追究しているうちに、羽も葉根も言わんとすることを適切に表現する漢字が選ばれていることに驚かされる。

玉名市繁根木（ハネギ）は中世から登場する地名であり、菊池郡七城町砂田の旧羽根木村は中世文書には繁根木と書かれ、ともに川沿いに位置することから護岸の水刎（みずはね）にちなむ地名と考えた。ところがハネ地名は河川沿岸にもあるし、山中にもあって水刎とは関係ないことを知った。

『日本地名ルーツ辞典』は万年山（ハネヤマ）について「玖珠盆地の南側、玖珠郡玖珠町と九重町との境にあり標高１１４０メートル。ハネは埴（はに）と同義だろうか。ハニ→ハネ→バネ→万年と転訛したと思われる」と述べているが、山岳とハニとは取り合わせがまずい。

『日本地名大辞典13―東京都』は大田区の羽田の地名由来説として、①多摩川河口に位置し、海に面する地をハネという②半分のことを半田

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。あえて合併前の町村名をそのまま使用しています。

という③海から見ると海老取川で二分された形が烏が羽を広げたように見える④赤土・粘土地をハニという⑤新開地を墾田（はりた）というのがハネタになった―などをあげるものの、先端の視点が欠けている。

菊池郡大津町の小字には尾刎（ヲバネ）という地名が目立つ。字図でみるとムラの先端部にあり、大字杉水字沖尾刎（ヲキヲバネ）は旭志村境に位置する。沖は奥、尾は先端、刎は羽の当て字で端（は）を羽（は）と表記したのが転化したのであろう。従って仲尾刎は〝先端の先〟と重々復した語ということになろうか。

相良村の葉根田は旧初神村の区域で川辺川の対岸は旧田代村になる。ムラ区域としての葉根田はまさに端根田（ハネタ、先端の所）と言うわけである。

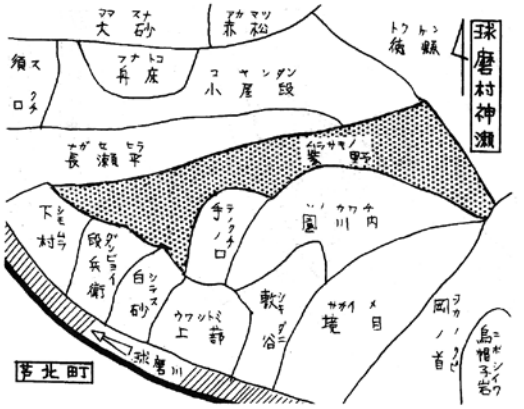
考えてみると葉も根も植物の先端であり、区域の端っこ表現を葉根田とした先人の気持がわかるような気がする。羽田をハネタと読ませるのは羽（ウ）にハとハネの訓があるからであろうが、本来は羽田はハタと読んで端（はた）の意だったと思われる。『和名抄』の羽地名の訓みはすべてハでありハネの訓は例がないのである。

紫野（ムラサキノ）

―球磨村神瀬―

球磨村神瀬字紫野は『万葉集』から抜け出してきたような地名である。

つくまぬに　おふるむらさき　きぬにそめ
託馬野爾　生流紫　衣染
いまだきずして　いろにでにけり
未服而　色爾出来
（巻三・３９５）



この歌の託馬野は熊本市託麻原のこととする説が有力である。〝生ふる紫〟というのは染料に用いられる紫草のことで、肥後国託麻郡から紫草を貢納したのを裏付ける太宰府出土木簡を論拠にして、熊本県の初代文化課長田辺哲夫氏（玉名市歴史博物館長）が託馬野・託麻原説を唱えたのである。

万葉歌にこだわるならば、神瀬の紫野は紫草の生えた野ということになるが、裏付資料は何も得られない。紫野を詠んだ有名な万葉歌は巻一・20の

あかねさす　むらさきぬゆき　しめぬゆき
西軍指　武良前野逝　標野行
ぬもりはみずや　きみがそでふる
野守者不見哉　君之袖布流

である。武良前野は紫野のことで紫草の生えた野のこととされる。しかしながら神瀬の紫野は紫草とは結びつきにくい点で、武良前野を安易に紫野として片付けてしまう気にはなれない。

『新校萬葉集』（澤瀉久孝、佐伯梅友）でみると、ムラサキに紫の字を用字する歌は十数首あるのに対し、巻一・20の武良前（むらさき）、巻十四・３５００の牟良佐伎（むらさき）の二首だけが〝万葉書き〟である。万葉集に用いられる漢字は表意ではなく表音であって、言葉の発音に合った字が当てられ、それを万葉仮名と呼び、一字一音表記が原則的である。しかし、字音だけでなく字意による表記も少なくない。武良前の場合、武良は一字一音の万葉仮名表記であるが、前（さき）は字意表記である。

色彩のムラサキについて『大言海』は「叢咲（むらさき）の義で紫草の花が黄白粉紅あれば云う、或いは群薄赤（むらうすあかき）の約略という」とし「古代の支那で紫（し）は真紅であった」旨を記している。正油をムラサキと別称するのはその名残りであろう。

何はともあれ、紫色は古代も現代も尊ばれ気品のある色とされてきた。万葉集にムラサキを漢語そのままに紫と表記したのは、紫に対する社会的認識が固定していたからであろう。その一方で武良前と表記したのは、紫に別のムラサキが託意（かけことば）されているのではなかろうか。

紫のムラと村のムラは群を語源とする同根の語と考えられ、神瀬字紫野は〝村の果て野〟の意と思われる。玉名市上小田字村雲（ムラクモ）は菊水町境にあり〝村隈〟の意であって、紫（村崎）の類似地名と言えよう。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

マイ・文庫本

シュリーマン旅行記　清国・日本

ハインリッヒ・シュリーマン著　石井和子　訳

白城松男

シュリーマンの処女作

考古学者・シュリーマン（１８２２～９０）の処女作である。原文は、La Chine et le Japon au temps présent で、１８６７年にパリで出版された。直訳すれば、『現在の中国と日本』になろうか。実際、文字どおり１８６５年５月から９月にかけての中国と日本の旅行記で考古学的内容は含まれていない。時期的には、トロイア遺跡発掘の６年前の作品ということになる。

『シュリーマン旅行記　清国・日本』ハインリッヒ・シュリーマン著　石井和子訳（講談社学術文庫1998年4月10日）

彼が幕末日本を訪問し、その旅行記を出版したことを不思議に思う人も多いであろう。世界一周に近い旅行をしているにもかかわらず、中国と日本についてだけ見聞記を発表した。その理由は確認できない。

彼は子どものころに絵本（１８８２年発行の『子どものための世界歴史』）を見てトロイア遺跡の存在を確信し、いつかはそれを発掘したいと考え、発掘費用を獲得するために商業活動に全力をあげ、古代ギリシャ語の習得にも力をそそいだ。シュリーマン『古代への情熱』（岩波文庫）はそうした刻苦勉励の彼の姿を描いた名作である。同書によれば、１８５８年末には少年時代の計画を実行できるだけの財産をつくりあげ商人生活を「精算」できるまでになっていて、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、イタリア、エジプト、エルサレム、ベトラ（ヨルダン）、アテネなどを旅行し、その準備にとりかかった。ところが裁判の当事者になったことから、その計画の実施は勝訴後の１８６３年末までひきのばされたが、『古代への情熱』によれば、「考古学にまったく身を捧げて、わが生涯の夢の実現に着手する前に、なおもうすこし世界を見たいと考え」、世界旅行の旅にでかけた。１８５８年末からの旅行の影響であろう。

『古代への情熱―シュリーマン自伝』（1976年　岩波文庫）

１８６４年から旅行を再開し、チュニス、エジプト、インド、セイロン島、ヒマラヤ山地、シンガポール、サイゴン、中国、日本、サンフランシスコ、ニカラグア、アメリカ東海岸、メキシコを周り、その後、パリに住居を構えている。シュリーマンによれば、サンフランシスコ在住中に本書を書きあげた。旅行地で記録用メモをとる習慣が彼にはあり、それで短期間に著作をまとめることができたのであろう。

ところで、幕末日本についての外国人の報告・記録は数多くある。本書はその一つにすぎない。しかも短文である。シュリーマンでなければ、本書をとりあげないかもしれないが、シュリーマンが幕末日本をどうみたか。それは、それ自体、興味をもたせるテーマである。彼の研究方法（勉強方法）を確認するうえでの参考になる。

どのような時代であったか

本書の前半は中国（清国）の記録である。順番からすれば、それから紹介するのが筋であろうが、日本についてのシュリーマンの見聞を注目することにし、中国については割愛する。

すなわち、彼が見たのは維新３年前の横浜・江戸であった。将軍家茂が長州再征のため江戸城を進発し大阪城へ向かった時期である。幕府軍の先方は譜代大名筆頭・井伊掃部頭（直憲）であった。桜田門外の変で父・直弼を殺害されたうえに、文久２年（１８６２年）に松平春嶽らによって直弼の専横・圧政を糾弾されて10万石を減封（35万石か

ら25万石に)されたが(文久の改革)、譜代筆頭として先方を務めている。他方、坂本龍馬を仲介して西郷・木戸による薩長同盟が成立しようとした時期でもある。もちろん、その頃は、発言力・軍事力は幕府が圧倒し、ほとんどの者は幕府の崩壊を予想していなかったはずである。

シュリーマンは家茂の行軍を眺めているが、政治的関心に基づく行動ではなく、好奇心に基づく物見遊山的見学であった。家茂の行軍目的については、征長目的でなく、孝明天皇(和宮の兄)のもとを家茂が訪問する単純な「旅行」と説明している。これは貴重な記録で、シュリーマンによれば、横浜の外国語新聞、立札にそのように幕府は説明していたのであった。征長という政治目的を幕府は意図的に隠したのであろう。

相良藩では「丑歳騒動」につながる路線対立が鮮明になっていた時期(尾方保之『概説 相良藩』(2008年11月15日 人吉中央出版社 363頁以下参照)にあたり、細川藩は長岡監物が幕府の征長に反対の姿勢を示していたものの大勢は佐幕的であった時代である。時期的には日米通商条約締結から6年目である。同条約は井伊直弼が家茂の名前で締結したもので、これによって、横浜などに外国人が居住するようになった。当時の横浜の人口は1万4千人で、政府関係者だけでなく貿易商も多数居住し、商取引をめぐる紛争もあった。たとえば債権者から逃れるため日本を秘密裏に脱出しようとしていた貿易商をシュリーマンは見かけている。この債務者はイギリス総領事館からの通知によって脱出に失敗したようだが、冒険的商人が多かったであろうと推測させる。

シュリーマンが目撃したもの

シュリーマンは見たものを直ぐにメモする「研究者」であった。メモする時間を事前に設定するほどにその姿勢は徹底していた。彼は多数のことに触れているが、それをすべて紹介するわけにはいかない。いくつか箇条書きしてみよう。

①人足は刺青していること、横浜の人足はカサブタが多く皮膚病に罹患している

②食事のときには家族全員が集まって正座して食べている

③平然と男女が混浴している

④シュリーマンたちをみかけたら、「唐人、唐人」と人々は、はやしたてる

⑤朝は「オハヨウ」と言い、別れるときは日本人は深くおじきして「サイナラ」と言う

⑥日本の武士は心付けを一切受け取らない

⑦江戸は危険なので、外国人の代表者は1人だけである

⑧馬丁は、下帯だけの姿で、馬とスピードを争うかのように駆け足で後を追ってくる

⑨諸外国の江戸への軍事派遣は商取引の利益をはるかに上回る負担になる

⑩警護中の合言葉は毎日変わる

シュリーマンは西欧人優位の立場をとっていない。社会学者のように事実を淡々と並べ、ときには「日本人が世界でいちばん清潔な国民であることは異論の余地がない」という。本書を一読するとき、幕末の危機のなかで、庶民が逞しく生活している姿がうかびあがってくるのであって、司馬遼太郎的世界とはちがう日本のイメージを受け取ることができる。

中国(清国)の観察記録については先に断ったように触れない。ただし日本の場合とは説明の筆致が相当に異なることを一言しておく。清国の崩壊を予感させる説明になっている。

【しらき・まつお／八代市】

生誕450年記念
書き下ろし

小説・相良清兵衛 ①

山口 啓二

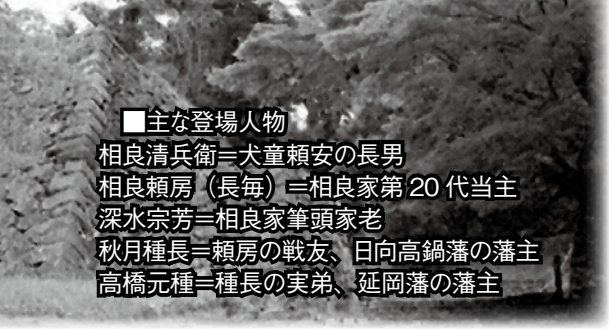
太閤殿下秀吉がこの世を去ったという〝ビッグニュース〟は朝鮮で戦う全日本軍にも伝えられた。

「秀吉亡きあとはすぐに帰還せよ」との遺言により、各将は帰国に備えた。相良清兵衛も領主頼房（長毎）公率いる相良軍の大将として蔚山から釜山へ向け後退、途中明軍とのし烈な交戦をしつつもようやく釜山に着いた。相良軍はこの朝鮮で幾度の痛烈な戦いをして功績を挙げてきたが、このたびの撤退の折りは今までにはない六十人以上の戦死者を出してしまった。

釜山到着後は浅野長政・石田三成ら諸侯と漸く博多に上陸、全軍が一路伏見を目指し、太閤殿下の葬儀へ向かった。葬儀を済ませた各将は敵兵から削ぎ取った鼻や耳を献上、京都大仏殿前に埋め供養し、かわりに太閤殿下よりの遺品を受け取り国元へ引き揚げた。相良軍も千八百余りの鼻を献じ、遺品の刀を戴いて慶長三（一五九八）年の暮れにようやく球磨へ帰郷した。人吉にはその際塩漬けの敵軍の耳千八百を持ち帰り、永国寺門前に埋めて供養。この朝も霧が深い、寒い朝の事だった。

清兵衛はもともと犬童頼安の長男であったが、最初の朝鮮出陣の文禄元年の時、まだ当主相良頼房公が若年だったために、その当時の筆頭家老深水宗芳が犬童清兵衛頼兄に「相良」の姓を名乗らせ二番大将に抜擢した。深水宗芳は嫡男の摂津介が豊後攻めの際に討ち死に、それなら清兵衛を我が養子にと強く望んだが、清兵衛も犬童家の嫡男であり話がまとまらず、又深水一族からの猛反対もあり、結果宗芳の実弟・深水帯刀の嫡男頼蔵が養子となって跡目を継ぎ、頼蔵もまた「相良」の姓を拝命して清兵衛と同じ二番大将として戦陣に加わった。しかしこの二人は日ごろから仲が悪く、いざという時のために川村の十島菅原神社に数百の連歌を奉納し、二人には諍いを治める旨を誓書に記させて戦場へ向かった。

それでも戦嫌いの頼蔵は任務を放り出して朝鮮から逃げ帰ったのち、隈本加藤家を頼ったりしていたがその後清正の配下となり、再度朝鮮に出陣の時に蔚山であえなく戦死した。この折に長く家老職を務めた深水家は断絶となり、多くの縁者が殺傷された。



■主な登場人物
相良清兵衛＝犬童頼安の長男
相良頼房（長毎）＝相良家第20代当主
深水宗芳＝相良家筆頭家老
秋月種長＝頼房の戦友、日向高鍋藩の藩主
高橋元種＝種長の実弟、延岡藩の藩主

朝鮮への出陣は大義のない戦いであった。まったくもって無意味な戦であった。太閤殿下の一声でこの戦いに七年間も費やし、十万を超える明軍と朝鮮軍、そして五万近くの日本兵がその尊い命を奪われた。参戦した全国の将校や卒兵はこの戦いに大きな不満を抱いていた。

その翌年の正月を過ぎた頃、相良頼房公は朝鮮での活躍を認められ『従五位下』の官位を賜われ、その半年後には秋月家のいく姫との婚姻も済んだ。

実は秋月種長・高橋元種兄弟と相良軍とは、二年前の『慶長の役』での戦いの時、二番大将黒田長政に就いて同じ苦労を味わった戦友であった。初めて会ったその折り、

「おう、貴殿があの誉れ高き相良義陽公の倅殿であったか。お父上の事、父種実より常々伺っており申した。九州には三人の尊敬する武将が居られ、そのお一人が御父上義陽公だと。のう元種」

「そうじゃったそうじゃった。その話はそう言えば幼き頃からよく聞かされたものじゃ」

「そうじゃ相良殿、我らの妹『いく』をぜひそなたの嫁にもろうてはもらえぬか。いくは母親に似てなかなかの器量良し、多分少し年上じゃがそなたも一目で気に入ってくれるであろうて」

「有り難きお言葉、もし生きて国元に帰る事が出来たならば是非にも。おう、元種殿もまだおひとり身だとか。そうなれば我が妹はいかがで御座ろう」

「ほほう、それは妙案、のう元種。ま、みな無事に生

きて戻れればの事ではあるがのう」

朝鮮から皆なんとか帰国出来たので漸くこの年約束が果たされたのであった。

その頃の相良家筆頭家老・相良清兵衛頼兄は城や町屋の建設で毎日大忙しであったが、その間暇を見つけては宇土の城主小西行長を幾度となく訪ねた。行長とは朝鮮での戦いの際に親しくしており、その後何度も手紙のやり取りをしていた。また黒田官兵衛や内藤如安、有馬晴信ら、ほかのキリシタン大名たちとも親しく交流を図っていたため、この戦いに大いに不満を持っていた清兵衛はキリストの教えに共感を覚えていた。その頃の清兵衛の宇土通いを世間では『せいびゃーどんの宇土詣で』と呼ぶほどであった。ただ、領内の神社や仏閣を次々に壊していく行長にはとても共感できなかった。

翌慶長五(一六〇〇)年の六月になり、徳川家康から『直ぐにも上京せよ』との命を受けた頼房公は、三十二歳という若さで名実ともに筆頭家老となった清兵衛頼兄と三百名ほどの家臣を引き連れ京都を目指した。すでに家康は上杉景勝を征しており、東国の元豊臣家臣の殆どが家康に従っていた。ひと月ほどをかけようやく京に着いたが、石田三成や秀頼に仕えていた側近の緒将は、『徳川に非あり』、として小西行長や毛利輝元、島津義弘、鍋島勝茂らと頼房公を説得、頼房公に半ば強制的に西国の将とともに家康が居る伏見城を攻めさせた。これ以後、西に位置する諸将は殆どが三成に味方をする事となり、また相良家は三成には相良頼蔵謀反の折りにも世話になり、その上行長たっての願いもあり、清兵衛と行長との仲もあって頼房公は西軍石田三成に加担せざるを得なくなっていたのだった。

頼房公は三成の手法はあまり好きではなかった。それは朝鮮でも何度も味わっていたことだ。加藤清正の下で戦っていたころ、三成は朝鮮での清正の根も葉もないことを幾度も秀吉に報告し、そのせいで朝鮮から一時帰国、清正とともに京都に出向き秀吉に詫びを入れた。しかし秀吉は会おうともしなかった。ちょうどその時畿内では大地震が発生し伏見城が崩落、清正と頼房公はいち早く伏見城に駆け付けたので、朝鮮での出来事はいっさい不問とされ、天災は彼らに大いに味方した。

清兵衛も同じく三成の知行を良くは思わず、しばらくの間懇意にしていろいろ教わった小西行長との縁切りも仕方なし、と考えていたのだった。そこで家老清兵衛頼兄は頼房公に、

「井伊直政公より我が軍に加勢を頼むとの申し入れが何度も来ておりますゆえ、使いを出して徳川軍に通じ、本来我ら徳川方に味方するとの書状を送るようになされば如何かと」

と提案した。書状には、

『我が軍徳川様にお味方しようと上洛するつもりが、石田殿始め小西殿や西国諸将の脅しにより伏見を攻め、今は大坂に居ります。しかし我らは徳川様に従います。この事態で暫くは石田軍にいますが、秋月殿、高橋殿と共に私たちの意志は変わりません。必ずや死力を尽くして家康様のために戦います。この事に二心がない事を御誓い致します。許しを賜えれば必ずや決行いたします』

と書かれていた。

井伊直政は書状を家康に渡した。家康は文面を読み終わると大いに喜んだ。

「うーむ、この戦、最後は相良殿はじめ秋月殿と高橋殿が勝敗の鍵になるやも知れぬよのう。直政、相良殿には委細承知したと伝えよ」

「かしこまってございまする。では早速」

石田三成は岐阜・大垣城を本陣とし本丸を妹婿の福原直高に守らせ、二の丸を垣見家純や熊谷直陳父子、木村宗左衛門父子が警護していた。三成は相良頼房、秋月種長、高橋元種に三の丸を護るよう懇願してきた。頼房公は秋月、高橋兄弟とは朝鮮の役で同じ黒田長政軍に属し、特に気の合う戦友でもあり、また同じ外様大名で、朝鮮にあって二人の妹いくを頼房公の嫁にと願い、昨年夏御輿入れが済んだばかりの「義兄弟」であった。

大垣城警備は何度も断ったが、そこで清兵衛頼兄がまた奇策を思いついた。

「如何に御座いましょう。本隊が大垣から出陣なされば城を守るは福原、垣見、熊谷、木村の兵数百のみ、すでに徳川殿の勝利は見えておりまする。なれば我ら一丸となってその城を陥としましょうぞ」

「何と申されるか清兵衛殿、それでは石田殿を裏切る事に相成るが。のう元種」

「秋月殿、高橋殿、こうやって今は石田方に居りまするが、我らもともと徳川殿に御味方するはず。このまま石田軍に居って突き進めば果ては改易になり我等の領地は遂には没収になりまするぞ。どうかご決断を」

「朝鮮でも大いに手柄をたてられ助けてもろうた清兵衛殿の策略とあらば抜かりは無かろうが」

「してその策とは」

「先ずは二の丸の三将を城外におびき出してこれを斬りまする。そのあと二の丸を攻撃し本丸まで一気に攻めたてるは如何かと」

「なるほど、ならば首尾はお主にお任せしよう。元種も異存は無かろうの」

こうして相良、秋月、高橋は大垣城三の丸を警護する事とした。

暫くして西軍の殆どの武将と兵が集結し、大垣城内はごった返していた。

九月十四日夜、三成は諸将と共に大垣城を出陣、美濃関ヶ原に一斉に兵を進めた。すでにこの深夜には大垣城は静かな時を迎えていた。

翌十五日早朝、家康率いる東軍の各将は福島正則を先鋒に、細川忠興、浅野長政、加藤清正らがあとに続いた。天下の一大決戦が始まったのだ。勝利はすぐに東軍に傾きかけた。すると小早川軍は翻って東軍に加勢する。島津軍はそれでも動きを見せなかった。

昼過ぎには勝敗は付いていた。東軍圧勝であった。三成は味方の兵数人を引き連れて山の中へ敗走した。この折、井伊直政は右肘に大傷を負った。家康はこの時手づから傷口に薬を注ぎ、癒やしたという。またこの戦で家康は兜を着けずに采配をしていたが、戦が治まってから漸く兜を被ってみせた。

「各々方、古来より言われる如く、これぞ勝って兜の緒を締める、でござるぞ。あっはっはっ」

それを聞いた一同、大きな声で笑い、そして勝利を喜び合い勝鬨（かちどき）を挙げた。

【やまぐち・けいじ／人吉市】

おっとわっとあすび　その⓫

絵と文／松舟博満

ガマとコウモリ

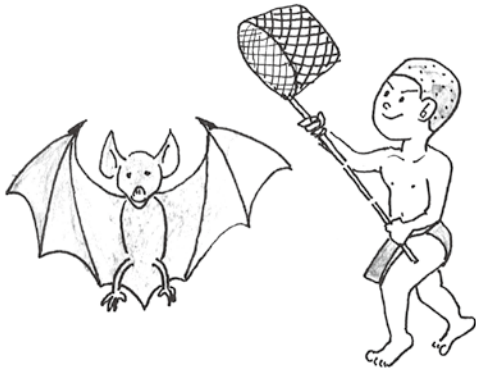
永野は、東林寺ば開山しやいた天瑞和尚の出身地で今でん、継母の墓や供養塔の残っとる。

戸越ん阿弥陀堂ん供養塔のあり、そけにゃ小柿溝の取り入れ口のあって、そんずっと先の球磨川ぞいにゃ水ば通さるガマ（ずい道）の掘ってあって、天瑞和尚の掘らいたて言われとり、永野にも天瑞和尚の掘らいたちゅうガマのある。

薬師堂から東さみゃおおかんば抜け、田のあいだばいけば、山つきんながんご（永野川）の北さみゃ流れとり、そこから水ば引くイデんあって、そこばコブチちゅうて子どんが水浴びり場じゃって、夏休みんなれば淵に、ひゃっきらん（入りきれない）しこの子どんで、ずびゃぁ（一杯）んなっ所れぇガマんあった。

コウモリ捕り

そんころん子どんでイヲすくい網ば持つとっとは、数ゆるしこしきゃおらじゃった（いなかった）でコウモリ捕りは、網ば持っとん者んがこんば始まらんじゃった。



網ば持って、暗かガマんひゃっ（入る）て行けば、目もだんだん暗か所ん慣れっきだして、良う見おれば天井ん何んかぶら下がっとって、そろっと近じいて、下から天井んブラ下がっとん網ばうち被すれば、網ん中きゃコウモリんひゃっとったで、明っか所んに持っていたて、網ん上から噛んつかれんごて押さえとって、ふたっ方ん羽ば広げて出して見れば、耳は太うして、鼻はびっしゃげ、足もあり、そんに小みんかったっちゃチンポまで持っとったで、皆でかたっごうし（かわるがわる）手に取って見て、ほっと（飽きる）すればガマん中きゃはってかし（逃がし）おった。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

くまがわ学習塾 ⑬

問１　（　）を埋め四字熟語を完成させよ（例:「（　）助之功」⇒「内助之功」）

①（　）心伝心
②（　）心同体
③（　）歩不離
④偕（　）同穴
⑤月下氷（　）
⑥相思（　）愛
⑦夫唱婦（　）
⑧海約山（　）
⑨合縁（　）縁
⑩鶏（　）之助

問２　肥薩線の川線の駅を書け（例：西人吉駅）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）
⑥（　　）
⑦（　　）
⑧（　　）
⑨（　　）
⑩（　　）

問３　江戸時代の熊本県内の「町名」を書け（例：八代町）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）

問４　写真をみて問い答えよ。

①八代市の教会名を書け

答（　　）

②球磨村の地蔵堂の名前を書け

答（　　）

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは 87 頁で。
★全問正解者には抽選で弊社の書籍をプレゼントします。ハガキ又は封書で弊社まで解答をお送りください。

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

襲いくる社会保障の改悪に寒空のもと街は人無く
霜の朝朱より生まれた稜線に光は増して茜とかわる
三原　竹二

刈り入れにかがしは土手にひと休み一家総出のにぎやか作業
冬近し風を集めて柿の葉の右に左に舞いつつ落ちる
坂本　ケイ

くねくねと曲がりて伸びし樹々眺む思春期の孫の成長に似て
危惧したる転倒ついに我が身にも全治二ヶ月前向き生きん
上田　廸子

食べ物を拒むかに見ゆ口閉じて最後の時を迎えし母は
母は孫に終焉の身を教えしか新年を生きる若き命に
宮川しのぶ

ゆずの香に包まれながら身を沈め湯が一番と体を伸ばす
北々と武器を売り込むトランプにぴったりすり寄るアベの卑屈さ
吉岡　弘晴

一面のトップに躍るＩＣＡＮの「平和賞授与」輝きて見ゆ
寂（せき）として日本政府の声のなしＩＣＡＮノーベル受賞の報に
上田　精一

「ひまわりっ子」阿蘇登山に挑む

東　慶治郎

杵島岳頂上での「ひまわり学級」の仲間（11月3日）

「阿蘇山」「阿蘇火山」という言葉からは世界一のカルデラ火山、国内で最も有名な観光地というイメージが湧く。詩人・三好達治は、詩「大阿蘇」「艸千里」で、阿蘇の牧歌的で悠久の時の流れを謳った。

二〇一六年四月、熊本大地震発生。多くの報道から震災の様子が伝わる。特に南阿蘇の立野の崩落は衝撃的だった。阿蘇のイメージは一変してしまった。そんな中、人吉市の学童保育「ひまわり学級」では親子登山を決断した。

最初の登山計画は霧島だった。ところが直前、新燃岳噴火のニュース。そんな中での阿蘇登山となった。

十一月三日（文化の日）は、「ひまわり学級」恒例の親子登山である。今年で二十数回を数える。今年は阿蘇五岳の一つ杵島岳。

登山日和を予感させる午前七時、総勢三十六名はマイクロバス一台、数台の自家用車で人吉を出発。高速道路で益城インターまで。それから一路、南阿蘇へ。阿蘇吉田線を通り、杵島岳登り口である草千里駐車場へ無事に到着。

大津を通り立野へ入ると震災の跡が生々しい。阿蘇大橋が崩壊した渓谷の緑ひとつ無い暗黒の起立した岩柱群には口をつぐむ。阿蘇吉田線の登山道からは烏帽子岳斜面のいたる所の黒々した地滑り跡も痛々しい。

さて登山開始。登山というイメージからはほど遠く舗装された歩道と階段で、どんどん登る。草千里の草原、車を停めた駐車場が歩を進めるたびに小さくなり、烏帽子岳の均整のとれた勇姿が広がる。子どもたちは、まるで駆けっこである。大人たちも息を整え歩き、一時間足らずで頂上へ。

頂上からは白い噴煙を上げる中岳をはじめとする阿蘇五岳の姿。阿蘇カルデラの外輪山、遠くには島原半島の山々、九州の尾根の山々が。もちろん九重の山々も。ちょっと霞んだ青空のもとに連なっている。山登りの幸せを感じる瞬間である。

地震の爪痕は頂上にも及び、至る所に亀裂が走り、危険区域を伝える虎ロープが張られていた。

無事に全員下山し、思い思いに弁当を広げ、阿蘇の温泉に入り、帰宅。

子どもたちが知恵豊かに、逞しく生きることを願い、この経験を少しでも活かしてくれたらと思う一日であった。

【ひがし・けいじろう／農業、人吉市】

［資料　阿蘇五岳］

1、中岳（一五一〇m）
2、高岳（一五九二・四m）
3、根子岳（一四三三m）
4、烏帽子岳（一三三七・四m）
5、杵島岳（一二七〇m）

参考文献『九州の山と伝説』天本孝志著（葦書房）

劇場版アニメ
公開記念

夏目友人帳のふるさと巡り❶

アニメ化されてから全国に多くのファンを生んだ「夏目友人帳」は、人吉球磨や球磨川流域を舞台としてシリーズ化され、2008年からテレビ東京で6期にわたり放映されている。今年2018年には初の劇場版が公開される予定で、それを機に舞台となった〝聖地〟を紹介していく。

天狗橋（人吉市中神町）

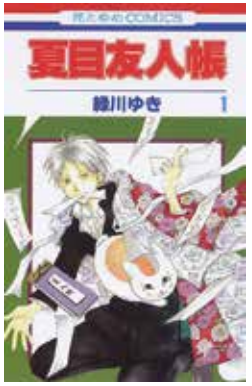
アニメの中でしばしば登場するこの天狗橋の竣工は昭和42年1月。以前の橋は岩を土台にした吊り橋であったという。

アニメのワンシーン。主人公夏目貴志と用心棒役のニャンコ先生（© 緑川ゆき・白泉社／「夏目友人帳」製作委員会）

上流から見た天狗橋

『夏目友人帳（なつめゆうじんちょう）』は、人吉市出身の緑川ゆき氏による漫画作品。初出は『LaLa DX』（白泉社・2003年7月号）で、単行本は第22巻まで刊行されている。

なお、漫画では舞台がどこであるか明らかにされていない。



田町菅原天満宮（人吉市田町37）

アニメ第二期のオープニングに登場するこの天満宮は、市内のひっそりとした場所にあるが、夏目ファンが全国から訪れる観光名所でもある。（本誌18号、上村和代「自分好みの「巡礼」に出会える一冊」参照）

アニメでは天満宮の横に建物が見えるが、現在は取り壊されて駐車場になっている。（© 緑川ゆき・白泉社／「夏目友人帳」製作委員会）

ニャンコ先生のイラストやファンの思いを書いた絵馬がかかり、まさに聖地だと思わせる

ファンが思いを書き残すノートや記念スタンプが置かれている

手のかからないペット

武井京子

年を取ってもワクワクするものを持とうといわれるが、今の私のワクワクは、日本蜜蜂の飼育である。「ペットにしては散歩なし、掃除なし、餌なし、世話なしでいいね」と家人が言う。

熊本地震の後の六月、我が家にやって来た。分蜂したのをいただいたのだが、日本蜜蜂は居心地が悪いと逃げるという。今は外出して帰宅したら巣箱を見るのが習慣になって、蜂が入っていると安心する。朝早くから夕方まで、蜜や花粉を取りに出かける。

朝日が差して、西日が当たらない場所が良いということで、柿の木の下に東向きに置いている。人間と同じような体内時計を持っているらしく、太陽と共に生活を送っている。

巣箱は重箱式というもので、角箱を四段重ね、四方の板は厚い杉材を使用している。一番下に五ミリ位の出入り口を設けている。寒い日は静かであるが、気温が上がると飛び出していく。雨の日もひどくない限り、働いている。

来た年の十一月、採蜜と思ったが、量が少なかったので、そのままにしておいたら、昨年四月も分蜂して、上の柿の木の枝に袋状の蜜蜂が下がった。何度か挑戦して一回だけ新しい巣箱に入れるのに成功した。一回はまるで竜巻のようにグルグル回りながらどこかに飛び去る。またある時は巣箱に入れたが翌日はいなくなったり。欲しいという人がいたのに残念であった。

蜜蜂は一群で掃除係、育児係、警固係、採蜜係と仕事を分担して、女王蜂が生む蜂の世話をしながら短い一生を終えるという。四週間とも六週間ともいわれる一生で、一匹の蜂が集めるのはスプーン一杯くらいというから貴重な蜂蜜である。

四段の巣箱の最上段が蜜を貯えるところで、花粉貯蔵、育児、居間と使い分けられているようだ。十一月、最上段から蜜を分けてもらった。古い巣箱の一つの箱からだけ頂いて、約一リットルの黄金色の美しい色をした蜂蜜だった。濃度も十一月頃が適しているという。西洋蜂蜜は体も大きく、一年に何度も採蜜できるので養蜂業者が飼っている。年一回しか採蜜できない日本蜜蜂の蜜は本当に貴重である。寒い時の蜜は白い個体になっている。「自家製非加熱蜂蜜だね」と、子どもが大変喜んでくれた。蜜蜂の一年に及ぶ尊い労働の賜物、ありがとう。

スズメバチが一匹、熱殺されてもいたし、冬の今でも気温が上がれば飛び出して行く。冬の庭にも枇杷、柊、山茶花（サザンカ）、菊など、花がないこともない。温度調節機能などない巣箱では、羽根を震わせたり、水を運んだりして適温を保つという。勤勉な働き方を見ていると「怠けてはいけませんよ」と言われているような気がする。

ワクワクをありがとう。自然保護の気持ちを持たせてもらってありがとう。今日も元気に働いているね。病気や虫にやられないように頑張って下さいね。

【たけい・きょうこ／人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

惜しかなア　著者のサインの欲しかった
あの日から　僕だけ花のあるデスク
芸術的　箸入れられん生き造り
お生憎　薬指見て分かろうに…
ありがとう　過去は忘れて呉るるかい
初笑い　産んどって良かったろうが
屠蘇気分　暫し私人で置いてくれ
バッサリ　大胆な論説じゃある
おいおい　ママは独占せんでくれ
ウフフ　うちのお古に有頂天

【むらかみ・きけん／人吉市】

安倍首相の元旦

久馬　俊

僕も新聞を読む。「おくやみ」と「首相の動向」は必ず読む。田舎に住む者にとって、「おくやみ」は絶対に必要な記事である。「首相の動向」も意外に読まれている。総理大臣が一体どのような生活をすごしているかはやはり関心をひくのだろう。

元旦の「首相の動向」をみると、皇居での新年祝賀の儀への出席を除くと、安倍首相は家族団らんの正月をすごしたようである。記事をみるかぎり初詣にはいっていない。朝食についての記事はない。お昼は、東京・六本木のホテル「グランドハイアット東京」の中にある日本料理のお店で母親の洋子さん、昭恵夫人らといただいたらしい。日本料理のお店だから、お雑煮やおせちをいただいたのだろう。正月にホテルで過ごしたことはないけれども、ホテル内の日本料理店である。元旦には正月料理を出すはずだ。正月料理といっても地域でちがうので、酢だこ、干し柿をいただいたのかは分からない。余計なことだが、実家のお節が美味しいと思うのだが、安倍首相にはその余裕がないのだろう。夜はフランス料理店で食事している。一瞬、驚く。元旦にフランス料理はないであろうと思う、そもそも、ふだんから、フランス料理店に行くことはないのだけど…。

昭恵夫人らと「オリエント急行殺人事件」を観たとも書いてあった。ショックである。年末に観にいき、列車が大雪で脱線したところまでみて、その直後に猛烈な睡魔に襲われて全部をみていない映画だ。もちろん粗筋は知っているが、演技を観たかったのである。再度チャレンジしてみようかと思っている矢先に、安倍首相が観ていた。理由もなく、悔しさがこみ上げてきた。

そういえば、安倍首相はホテルの玄関前で家族と記念撮影している。ギクリとした。元旦に記念写真である。記念写真は山口県の習慣であろうか。それとも安倍一族の慣習だろうか。謎である。

それにしても初詣の記事がないのは不思議である。政教分離を意識して参拝しなかったのであろうか。僕は、近くの神社と八代宮に初詣にでかけ家族・友人の健康を祈願し、おみくじをひき、お守りを買った。雑煮をいただき干し柿を食べた。一年の計は元旦にある、というので、今年の目標をたてた。日記をつづけるという難易度の高い目標である。安倍首相もおそらく目標を立てたであろう。政治の目標でなく個人としての目標である。丁寧に話すことが目標であったら、僕としてはうれしい。

元旦を「休日」の一種と考えて行動する人が増えてきた。芸能人の「ハワイ詣では有名」だが、普通の人も海外にいってリフレッシュするようになってきた。安倍首相もその一人であろう。内心はうかがえないけれども、外部にあらわれた行動はそうなっている。もちろん、それが悪いということではない。世の中は変化するのであって、絶対的基準など存在するはずがない。

1月4日、官邸広報室は「首相の素顔の発信に力を入れたい」として、インスタグラム（インスタ）の公式アカントを開設した。

【きゅうま・すぐる／八代市】

広辞苑第七版

平岡優平

1月12日、発行された。

昭和30年5月25日初版発行。第二版は昭和44年5月16日、第三版は昭和58年12月6日、第四版は平成3年11月15日、第五版は平成10年11月11日、第六版は平成20年1月11日の発行である、第六版出版から10年目の改訂になる。

電子辞書・インターネットの普及の結果、辞書市場は急速に縮小し、改訂を予定しない辞書もみられるようになった。しかも『岩波国語辞典』などの小辞典が存在する一方、『国語大辞典』のような大辞典も存在するなかでの中型辞典の出版である。

「広辞苑によれば…」からはじめる

表現がかつてはあった。『広辞苑』の権威性を示す用法で、おそらく長い間、広辞苑しか中型辞典がなかったこと、岩波書店と新村出の名声が権威性を生み出していたのであろう。

しかし、現在では、そういう表現は死滅した。それは、『広辞苑』の権威が低下したからではなく（権威の低下を指摘する論者もいるが）、各辞典の個性を認める傾向が強まったことによるだろう。『新明解国語辞典』はその代表例で、その独自の語釈は多くの注目を集めて、「新解さん」の愛称で呼ばれるまでにいたっている。『三省堂国語辞典』は新語に強いことで定評があり、通り名は「三国」。日本語の辞典である以上、内容がちがうと理解するならば、それは誤解である。各辞書にはそれぞれ特徴があるので、辞書は多く持っていた方がいい。少なくも、『言海』は手元に置きたい。『言海』はすべての国語辞典の出発点である。

それでは『広辞苑』の特徴はなにか。結論的なことはいえないけれども、量的な面での「過不足のなさ」は指摘していい。小辞典では物足りない、大辞典は大部すぎて利用しにくく、両者の隙間を埋めるのに程合いがいいのである。白河静の漢和辞典類をたとえにすると、『字通』、『字訓』、『字統』を机に並べるわけにはいかないが、『常用字解』では物足りない、その中間が欲しいという感じである。それは中辞典に共通する特徴で、大辞林、大辞泉と比較した場合の広辞苑の特徴についていえば、昔からの語釈の順番に説明している点に特徴があるであろう。したがって、現在ではあまり使用しない用法も掲載されている。これに対して、大辞林は「現代」にこだわっているようにみえる。大辞泉も同様だ。豊富なカラー図版も大辞泉の特徴であろう。

みなおすべきと判断したとき、出版社は改訂版を出す。今回の改訂目的はどこにあるのか。その目的は達せられているのだろうか。それは実際に使ってみなければ判断できない。

【ひらおか・ゆうへい／八代市】

話題を追って

国の登録有形文化財
青井神社で証書伝達式

国の登録有形文化財となった国宝・青井阿蘇神社の「旧青井家住宅」の主屋・西蔵・東蔵・門の4棟と蓮池に架かる「禊橋」の計5件に対する、文部科学大臣名の登録証が12月25日に伝達された。

登録証の伝達式は午後1時半から文化苑の庭園で行われ、松岡隼人市長から同神社の岩下博明氏子総代会会長、岩井實奉賛会会長に登録証5枚が手渡された。

気象予報士の防災教室
2月24日、イオン八代

地震や津波から身を守る方法を学ぶ講座が2月24日、イオン八代で開催される。講師は気象予報士の早田蛍氏。お問い合わせは、八代市生涯学習課（☎0965・30・1110）へ。

20日、30年度総会
求麻郷土研究会

求麻郷土研究会（片野坂勲会長）の平成30年度の総会が1月20日、あさぎり町免田の「彦六」で開かれる。昭和47年に発足した同会は、今年で46年目を迎える。

人吉市鍼灸マッサージ師会
新春文化講演会

日時：平成30年1月28日(日)
午前11時～12時30分
場所：人吉市西間下町「いず美」2階
（駐車場が狭いため乗り合いでお越し下さいませ）
―国宝指定10周年記念特別講演―
「国宝指定、これまでの10年とこれからの10年」
講師：青井阿蘇神社 宮司 福川義文 先生
前話：～相良藩吉組～主宰 定吉 様
入場無料
主催：人吉市鍼灸マッサージ師会
後援：人吉おおくま座の会
お問い合わせ：宮原はり灸院
☎0966・23・3067

俳句大学
Haiku University

今月の秀句
Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

Haiku Column ⓫

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れたHaiku」を提案している『俳句大学』facebookページからの転載です。

https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/

Kamel Meslem
●
Premiers flocons
le goût du thé encore dans mes lèvres
【Commented by Mitsunori Nagata】
Toriawase entre la première neige qui virevolte et le gout du thé sur les lèvres donne une atmosphère typique de la saison de la première neige.

カメル メスラム
●
初雪
紅茶の味がまだ私の唇に
〔永田満徳評〕
そう多くない「初雪」のちらつく様と唇にかすかに残っている「紅茶の味」との取り合わせによって、初雪の頃の雰囲気を描きだしている。

Lucia Cardillo
●
luci di Natale
nel vicolo gli occhi d'un micio
【Commented by Mitsunori NAGATA】
On entend seulement le cri du chat dans la nuit noire. On sent l'atmosphère sinistre ou bien la tranquillité, selon le lecteur. C'est un bon exemple de haiku sans réponse.

ルチア カルディーロ
●
無月の長い夜
猫の絶え間ないゴロゴロいう声
〔永田満徳評〕
闇夜に猫の声だけが聞こえる不気味さを感じるか、静けさを感じるかは読み手に任されていて、答えを述べない俳句の見本がある。

Morgan
●
fil d'araignée entre deux rosiers ~
seul le vent pour l'habiter
【Commented by Mitsunori NAGATA】
Le vent fait trembler la toile d'araignée. L'auteur a bien utilisé le mot habiter. Le vent qui habite les rosiers est une expression belle et poétique.

モーガン
●
薔薇の間の蜘蛛の糸
風だけが住んでいる
〔永田満徳評〕
蜘蛛の糸を揺らす風を「住んでいる」と擬人化したところがよく、薔薇の住人としての風とはいかにも洒落た、詩的表現である。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

問４、小山勝清について次の文章は正しいか。正しいときには○、誤っているときには×をつけよ（例：勝清は五木村の出身である。×）

①勝清は済々黌を卒業した。×
②勝清は柳田國男と面識がない。×
③勝清は片山宣と面識がない。○
④勝清は反禁酒運動を進めた。×
⑤勝清には息子はない。×
⑥勝清の父親は国会議員であった。×
⑦勝清の最後の著作は『在る村の近世史』である。○
⑧勝清は浄土真宗本願寺派に帰依していた。×
⑨勝清は熊本大学医学部附属病院で死亡した。×
⑩勝清の墓は東京都にある。×

問５、写真をみて問い答えよ。

①芦北町と津奈木町の間にある。隧道名を答えよ
答（　**津奈木隧道**　）

登録有形文化財。明治 36 年（1903 年）竣工。長 435.5 メートル。幅 5.5 メートル。旧国道３号線の佐敷太郎峠にある。佐敷太郎は「三太郎峠」のなかでも特に難所であった。徳富蘆花は『死の陰』（大正６年）で次のように書いている。「馬は九月末の午日に照らされた津奈木太郎の長坂を汗をたらして上って行く。国道が改修されて馬車も通ふ程になったが、津奈木太郎は矢張り津奈木太郎である。豊太閤の薩摩攻入にも、西郷軍の熊本進出にも、此峠を越したのだ」。蘆花は水俣の徳富家から日奈久に向かい、そのとき、津奈木隧道を通ったのであった。蘆花のいう「豊太閤の薩摩攻入」は秀吉の島津攻撃のこと。「西郷軍の熊本進出」は西南戦争を指す。西南戦争のとき西郷隆盛は薩摩街道ではなく人吉経由で球磨川を下っている。

②錦町にある遺跡名をを答えよ
答（　**亀塚古墳群**　）

観音寺遼『そらと陸の約束』（2017 年９月８日　熊日出版）32 頁に、「錦町西の新宮寺六観音を目指して西に向かった。……途中、国道二一九号線沿いに甘粕饅頭の『市房堂があった。……前方後円墳を右手にみながらさらに（自転車で）二〇分足らず進むと、入口に３メートルはある大きな観音様が立っていた」の一文がある。その一文のいう「前方後円墳」は本設問の回答である亀塚遺跡群であろう。宅地化が進んでいて他の遺跡と同じく簡単にはみつけだせない。

錦町教育委員会『錦町の文化財』（平成 28 年３月）20 頁は「球磨郡で唯一の前方後円墳で、南限を構成する前方後円墳でもあります。全３基から構成されます」と説明している。同書も解説しているように、前方後円墳は大和政権と密接な関係がある遺跡で、一見の価値があるが、先の事情から１基しかみつけていない。錦町の道の駅の観光案内看板も１基だけ紹介している。

木崎『魅せられし人々』も当然これに注目し、1916 年（大正５年）４月 20 日発行『球磨郡郷土誌』がこれに触れて「西村内門、県道の南側に亀塚と称する塚三つあり、各周囲三百八十尺、高さ凡そ二十尺程にして、皆亀状をなして北へ向ひ三角形の各頂点に当たる如く配置す」と説明していたとする（6 ～ 7 頁）。前記『錦町の文化財』によれば、３基の大きは同一でなく、三基のひとつは「北」ではなく、「西」を向いている。

木崎は、「近時附近の開墾せらるゝに当り、土中より３尺方位の切石の石畳を掘り出し、或いは刀剣類を発掘し、甕の欠を見出したることあり」との『球磨郷土誌』の一文に注目し、「0.81㎡の石畳というなら、箱式石棺程度の大きさで……見逃せない記録」とする（8 頁）。

前号【くまがわ学習塾⑫の答え】

問１　横綱になった力士名をかけ（例：大鵬）

①栃ノ海
②佐田の山
③玉の海
④北の富士
⑤琴櫻
⑥輪島
⑦北の湖
⑧千代の富士
⑨隆の里
⑩双羽黒

相撲の歴史は古い。強き者を讃える太古の時代からあった。『古事記』、『日本書記』にも登場し、大和朝廷が隼人族に相撲をとらせた例は有名である。強き者は邪鬼を払うという観念のもと「神事」的要素がしだいに相撲に付着するようになり、相撲は奉納物になった。それは現在にもひきつがれている。神事性は五穀豊穣の願いと重なることから「勝負」的要素を薄め、勝ち負けの判断を回避する傾向を生みだした。同時に、「勝負」性を重視する傾向も残存し、興業的要素もみられるようになった。力士の格付は力士の登場順序の形式化に由来する（番付）。弱き者から登場し強き者は後から登場する仕組である。横綱は吉田司家による免許付与行為にはじまる。大関に与えられる例が多数であったが、それより下位の力士に与えられる場合もあった。現在の大相撲は勝率制を採用し、勝敗重視のスタンスである。勝てば格付も自動的に上昇する仕組である。

問２　「元号」の例をかけ（例：昭和）

①大正
②明治
③慶応
④元治
⑤文久
⑥万延
⑦嘉永
⑧弘化
⑨天保
⑩文政

［元号］
『日本書記』は「大化の改新」（645 年）時に、「大化」が用いられたのが日本での元号使用の最初とする。木簡の分析が進み、文武天皇 5 年（701 年）の「大宝」制定以降に元号制度は確立したのではないかとの意見が有力である。

問３、坂本（八代坂本町）の製紙工場の創始者４人の名前をかけ

①上羽勝衛
②岡崎唯雄
③藤村紫朗
④安場保和

［四人の略歴］
①上羽勝衛。天保 13 年（1842 年）4 月 4 日～大正 5 年（1916 年）10 月 30 日、宇土郡宇土町で、細川・宇土支藩の藩士の子として生まれる。以下、彼の略歴は本誌 21 号 50 頁の「コラム 上羽勝衛」参照。
②岡崎唯雄。？～昭和 2 年（1927 年）10 月 13 日。熊本・米屋町の岡崎家の嫡男として生まれる。幼名は唯之助。後、唯雄に改める。号は丹田。岡崎家は、毎年、1 万両余を細川藩に納付する豪商で、唯雄は当時の通例にしたがい算盤のほか武芸も習う。「西南の役」の直後に営業を再開し頭角をあらわす。その活動は実業界のみならず、教育界、政界など多方面におよび、後の熊本県立熊本商業高等学校の前身「素心吟社」を設立したほか、熊本商法会議所の理事、副会頭を経て、熊本商業会議所の初代会頭になる。九州鉄道、日清貿易会社、熊本紡績会社などに関与。坂本工場設立直前に『朝鮮内地調査報告』（明治 28 年 1 月）を出版。朝鮮半島へ関心の強さをうかがえる。熊本市議議員、県会議員を経て、衆議院議員を 2 期つとめた。明治 41 年に隠居し、実業界・政界からを引退する。享年 84 歳。有名な早川倉庫は岡崎がつくった建物である。★角田政治『肥後人名辞書　全』（青潮社）などを参照し、死亡日と享年は確認できたが、正確な生年月日は特定できずにいる。死亡日・享年から逆算すると、天保 11 年（1840 年）か天保 12 年（1841 年）生まれになりそうである。
③藤村紫朗。弘化 2 年 3 月 1 日（1845 年 4 月 7 日）～明治 41 年（1908 年）1 月 4 日。細川藩士・黒瀬市左衛門の次男として熊本町に生まれる。のち萱野太平の養子になって萱野嘉右衛門と称する。尊皇攘夷運動に参加し、文久 3 年（1863 年）の「文久の政変」後に脱藩し、翌年の「禁門の変」で長州軍に加わる。その後も、名前をたびたび変えながら、長州藩と行動をともにする。維新後、山梨県令、同知事、愛媛県知事などを歴任。明治 29 年に男爵。晩年は郷里に戻り若者の教育につくした。山梨県令時代の活動は有名。ワインの醸造（大久保利光の指示よって開始したという）、洋風建築（「藤村式建築」と称される）の促進、道路改修など（「道路県令」のあだ名がある）。山梨県甲府市の交流施設・「藤村記念館」は藤村紫朗の前に由来する。
④安馬保和。天保 6 年 4 月 17 日（1865 年 5 月 14 日）―明治 32 年（1899 年）5 月 23 日。細川藩重役の家柄（先祖・安馬一平は赤穂浪士事件で大石良雄の介錯をしたことで有名）。時習館の居寮生になるなど早くから頭角をあらわし、横井小楠門下の四天王と称された（四天王は、安馬のほか、喜悦氏房、山田武甫、宮川房之である）。戊辰戦争に参加。丹沢県、酒田県の大参事、愛知県令、福岡県令、北海道長官などになる。明治 29 年に男爵。曾孫の安馬保吉が編集した『安馬保和伝 1835 － 99 年』（藤村書店）がある。

編集後記

年明け早々の厳しい寒波の中、寒中お見舞い申し上げます。★さて、今年のＮＨＫの大河ドラマは「西郷どん」ということもあって南九州の人間は視聴率が気になるでところではなかろうか。本誌も原作から気になるエピソードを拾ってみたが、今年ばかりは西郷どんのお世話になる年になりそうだ。★相良清兵衛の生誕４５０年を記念した書き下ろし小説「相良清兵衛」は、以前から清兵衛の生涯に興味を持っていた人吉市の山口啓二さんが資料を読み漁り、一念発起した作品。史実の隙間を想像で補った小説で、長らくのお付き合いをお願いする次第。★今年、劇場用アニメが公開される予定の「夏目友人帳」は、球磨川流域を舞台した緑川ゆきさんの人気作。今号から始めた「ふるさと巡り」もその人気にあやかろうというもので、地方から全国に、この流域の話題を提供したいという、ささやかな願望の一端である。（ま）

〒８６８―００１５
熊本県人吉市下城本町１４３６―４の３号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hitoyoshi.co.jp
電話・ファックス ０９６６・２３・３７５９

インフォメーション

【開催中】

▽必勝 合格祈願ノ旅（～3月5日、球磨村一勝地地区）

1月18日（木）
▽ホワイエ「ピアノと歌によるニューイヤーコンサート」（八代市厚生会館1階ホワイエ）

1月19日（金）
▽人吉市内小学6年生子ども議会「みんなでつくろう人吉市の未来」（人吉市カルチャーパレス）

1月20日（土）
▽熊本県地域景観セミナーIN八代（やつしろハーモニーホール）
▽石塚まみ&石塚隆充ライブ（ひとよし森のホール）

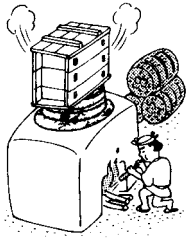
1月21日（日）
▽繊月カップ男子テニスダブルス大会（人吉市村山公園テニスコート、田野テニスコート）
▽新春・七つの蔵の利き酒と味祭り（多良木町交流館石倉）

1月27日（土）
▽人吉市東西コミセン講座フェスティバル「展示発表」

1月28日（日）
▽人吉市文化財防火デー防火訓練（老神神社）
▽多良木町文化財防火訓練（太田家住宅）
▽熊本・大分地震復興支援「東京佼成ウインドオーケストラ田中靖人氏とのジョイントコンサート」（人吉市カルチャーパレス）

2月1日（木）
「人吉球磨は、ひなまつり」スタート（～3月21日、郡市一帯）

匠の技



御膳醤油
（だし入り万能しょうゆ）
・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円（税抜）

◆みそ煎餅
477円（税抜）

◆納豆みそ
477円（税抜）

◆納豆みそ（お徳用）
300円（税抜）

人吉散策コース 九州相良 蔵めぐり
みそ・しょうゆ蔵

資金会社 マルカマ 釜田醸造所
会長 釜田元嘉
社長 釜田顕
〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話（0966）２２－３１６４
FAX（0966）２２－３１６５
メール info@marukama.co.jp

TAKEDA Eye Clinic
たけだ眼科クリニック
院長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの
アイ ウェア槇
（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097

デイサービスセンター
ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）
いずみ
協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307